

忘れられない 感動と思い出

ホストファミリーとの交流体験



▶ダンディ派遣生



◀プリズベン派遣生

平成22年度 燕市国際交流事業

報告書

平成 22 年度 燕市国際交流事業報告書 目次

はじめに	燕市長 鈴木 力	1
ダンディ目次		2
ダンディ日程表		3
ダンディ派遣生体験報告		4~11
ブリスベン目次		12
ブリスベン日程表		13
ブリスベン派遣生体験報告		14~45
シェボーガン目次		46
シェボーガン日程表		47
シェボーガン団員・受入家庭体験報告		48~55
シェボーガン使節団への日本文化紹介者の報告		56
広報紙で紹介した本年度の国際交流事業		57~59
編集後記他		60

はじめに



燕市長 鈴木 力

燕市の国際交流事業は、姉妹都市との生徒の相互交流と次代を担う人材育成を目的とした中学生の海外派遣を軸として、平成18年3月の新生「燕市」の誕生から5年目を迎えております。

平成22年度は、姉妹都市アメリカ合衆国ウィスコンシン州シェボーガン市からの使節団受入事業から始まり、姉妹都市アメリカ合衆国ミシガン州ダンディ村及びオーストラリア・ブリスベンへの市内中学生の派遣事業を実施いたしました。

シェボーガン使節団の受け入れでご苦勞をされたホストファミリーとダンディとブリスベンへの派遣生のみなさんの体験談や楽しかった思い出など、国際交流事業に携わっていただいたみなさんの声をこの冊子で紹介しています。

慣れない日本の生活で戸惑うシェボーガン市からのお客さまを自分の家族のように受け入れてくださったホストファミリーのみなさんには、温和な心で、異国の方々を迎え入れてくださったことに対して感謝いたします。

また、ダンディ及びオーストラリアへの派遣生は、それぞれが大きな目標を持ち、海外での風土の違い、言葉の違い、慣れない生活様式に戸惑いながらも、持ち前の明るさで乗り越えて来た精神力は、みなさんにとって希望にあふれた未来への大きな原動力になることでしょう。

外国から見た日本。日本から見た外国。この事業に参加またはかかわってくださった方々は、それぞれに色々なことを体験し感じられたのではないのでしょうか。世界はこれからますますグローバル化し、今後も多くの方々が外国の方と接する機会が増え、市民一人ひとりの国際交流の場も多く生じるものと思われます。

当市の国際交流事業を通じて市民のみなさんの国際理解が深まり、国際感覚が磨かれることを切に希望するとともに、私たちみんなが、相手を気遣い、感謝の気持ちをもてるような、心のこもった国際交流事業をこれからも続けられるようご協力をお願いいたします。

ダンディ派遣生体験報告

もうひとつの故郷.....	燕中等教育学校 3年	立 島 里 緒 4
この思い出、一生忘れない・・・.....	分 水 中 学 校 3年	平 沢 桃 奈 6
See You Again!!	分 水 中 学 校 3年	古 瀬 博 規 8
I ♥ AMERICA	吉 田 中 学 校 3年	横 野 零 亜 10

平成22年度 燕市海外派遣事業(姉妹都市ダンディ)日程表

月 日 (曜)	都 市 名	現地時間	交通機関	内 容
7/27 (火)	燕三条駅集合 燕三条駅発 東京駅着 東京駅発 成田空港着 成田空港発	9:20 9:49 11:40 12:03 12:56 15:05	新幹線 成田EX DL276便	※団員・保護者集合 Max とき318号で東京へ 成田エクスプレス21号で成田空港へ 大きな期待を胸に、空路デトロイトへ 〔日付変更線〕
	デトロイト着 ダンディ	13:50 17:30		空港到着後、ダンディへ向けて出発(担当者出迎え) ホストファミリーとの対面(歓迎会):ダンディ・スクール 〔ホームステイ〕
7/28 (水)	ダンディ			英語レッスン、オールドミル(旧製粉所)見学、 ダンディ村庁舎訪問、ダンディ村内見学、カヌー での川下り 〔ホームステイ〕
7/29 (木)	ダンディ			英語レッスン、グリーン・フィールド・ビレッジ でアメリカの歴史体験 〔ホームステイ〕
7/30 (金)	ダンディ			英語レッスン、トレド美術館、陶器制作体験、スー パーで買い物 〔ホームステイ〕
7/31 (土)	ダンディ			各自のホストファミリーとともに過ごす 〔ホームステイ〕
8/1 (日)	ダンディ			各自のホストファミリーとともに過ごす 〔ホームステイ〕
8/2 (月)	ダンディ			英語レッスン、ダンディ高校で水泳、ライブハ ウス見学、ショッピングモールで自由行動、ダ ンディ高校でバスケットボール 〔ホームステイ〕
8/3 (火)	ダンディ			英語レッスン(自己紹介スピーチの練習)、デトロ イトタイガースVSシカゴホワイトソックスの試合 観戦、バーベキュー・パーティ 〔ホームステイ〕
8/4 (水)	ダンディ			シダーポイント(アミューズメントパーク)で 一日過ごす 〔ホームステイ〕
8/5 (木)	ダンディ			モンロー・カウンティ・フェアを見学、 お別れ会(ホストファミリーへの感謝の会) 〔ホームステイ〕
8/6 (金)	ダンディ デトロイト発	11:00 16:00	DL275便	ダイヤモンド電機に集合後デトロイトへ移動 楽しかった思い出をお土産に空路、帰国の途へ 〔機内泊〕 〔日付変更線〕
	成田空港着 成田空港発 東京駅着 東京駅発 燕三条駅着	17:40 18:48 19:49 20:12 21:53	成田EX 新幹線	入国手続き終了後、 成田エクスプレス46号で東京へ とき347号で燕三条駅へ 到着後、解散

もうひとつの故郷



燕中等教育学校 3年 立 島 里 緒

私は小さい時から英語を書いたり、話したりすることが好きでした。そして今回の派遣事業に参加できたことをすごくうれしく思っています。



約12時間のフライトを終え、アメリカのデトロイトへ到着しました。文字は全て英語で人々も英語ばかり喋っていました。

初めてダンディ村の人、自分のホストファミリーにあって少し不安でもありました。でもそんな不安をなくしてくれたのはみんなの笑顔です。小さい子たちも明るくとてもフレンドリーで楽しく過ごすことができました。

1日目は、DavidさんからMtn Dew！を初めて飲み、すぐ好きになりました。そのあとダンディミドルスクールでWelcomeパーティーをしました。初めて自分のホストファミリーや他の人のホストファミリーに会いました。パーティーの後、ママとAmyとスーパーに初めて行きました。何もかもすごく大きくてビックリしました。家は庭が広く家も広々していて良かったです。

2日目は、この日一番楽しかったのはカヌーです。初体験でひっくり返らないか不安だったけど楽しかったです。途中、Sethさんに水をかけられたり、雨が降ったりで大変だったけどすごく楽しかったです。家ではポットローストを食べました。

3日目は、子供たちと一緒にグリーンフィールドビレッジに行きました。一日中子供たちといたので、会話に少し慣れることができました。帰りの車ではTheronと楽しく会話をしました。分かりやすく喋ってくれるので、すごく親切な子だなと思いました。

4日目は、トレド美術館へ行ったり、陶器の色塗りなど、すごく楽しかったです。夜はLayton家で乗馬をしたり、バスケットをしました。

5日目は、ホストファミリーとケイラとモールに行ったり、家でパーティーをしたりと楽しい一日でした。

6日目は、「Build a Bear」で自分のテディベアを作りました。家ではTシャツを作ったり、アンクレットを作ったりしました。

7日目は、ダンディハイスクールで水泳をしました。「マーコ・ポーロ」という遊びがすごく楽しかったです。その後、Ann Arborへ行って、帰りは学校でバスケットをしました。地元の子たちも来てとても楽しかったです。

8日目は、デトロイトへ行きました。野球観戦をしたり、ピザを食べたりと楽しかったです。

9日目は、シダーポイント！すごく広くてローラーコースターは怖そうでした。この日Willとプレッツェルを食べたり、子どもたちとスイングに乗ったりとすごく楽しかった一日

でした。

最終日は、モンローカウンティフェアに行きました。家に帰ってパーティーの準備。私は日本から持ってきた「そうめん」をみんなに振る舞いました。フォークを使って食べて、「おいしい」と言ってくれてうれしかったです。そして、この日でお別れの人もいてすごく寂しい気持ちでいっぱいでした。

ついにみんなとのお別れ。関わった人、全てが優しくフレンドリーだったため、感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとう。そして、また絶対ダンディに戻ります。この派遣事業に関わっている人、いつも親切にしてくれたホストファミリー、喋りかけてくれた子供たち、毎日が楽しく思い出に残る日々でした。Thank you !



この思い出、一生忘れない・・・

~~~~~

分水中学校 3年 平 沢 桃 奈

アメリカで過ごした10日間は、私にとって一生忘れられない思い出になりました。日本では経験できないことをダンディで経験することができました。

7月27日朝、いよいよ日本出発。大きな期待の反面、少し不安もありました。飛行機内で過ごす時間がとても長く、「早く着かないかなあ・・・」とソワソワして眠れませんでした。そうこうしているうちにデトロイト空港に到着。空港内のアナウンス、周りの人が話している言語が全部英語だったので、改めて「ここはアメリカだあ!!」と思いました。入国手続きを済ませ、到着ロビーでダイヤモンド電機のDavidさんと初対面。すぐに駐車場へ行き、ダンディに向かいました。約1時間後、ダンディミドルスクールに到着し、Welcomeパーティーが行われました。私もホストファミリーも緊張していたけれど、時間が経つにつれて自然と打ち解けることができました。Welcomeパーティーが終了し、いよいよホストファミリー宅へ向かいました。車に荷物を私が乗せようとしたら、ホストファザーと11歳の男の子Jarrodが「女の子は力仕事はやっちゃだめだよ。」と言われました。



アメリカはレディファーストが当たり前でした。「アメリカはいいなあ」と感じました。ホストファミリー宅に到着しました。アメリカの家は、家よりも庭の方が広くて、私のホストファミリーは馬を4頭も飼っていてビックリしました。この日は長時間の飛行機で疲れていたため、早めに寝かせてもらいました。土日以外の日中は派遣生とSethさんとで行動していました。その中でも、一番思い出に残っているのは、2日目のカヌーです。Raisin Riverという川をカヌーで下りました。最初の方は、まだ慣れず何回も木に引っかかり、後半はいきなり土砂降り。近くで雷も鳴っていてパニックになってしまいました。ビショビショでパニックだったけど、良い思い出になりました。その他の時間はホストファミリーと過ごしました。アメリカに滞在している間、驚いたことがたくさんありました。

まずは「食」です。朝ご飯で4歳の男の子Ethanが食べていたシリアルの色が青、紫、オレンジなど「こんな色の食べ物があるんだ!!」と驚きました。

続いて「住まい」についてです。アメリカの家の中では靴を履いて過ごすと思っていましたが、最近それをあまり好まない人が多く、私が思っていたことと全然違いました。他にも驚いたことはここで紹介しきれないほどありました。

楽しく過ごしたダンディでの生活も残りあとわずか・・・。ダンディで過ごした日々は毎日が充実していて、本当に楽しいことばかりでした。アメリカ最後の夜は派遣生みんなと、みんなのホストファミリーとでFarewellパーティーという、いわゆるお別れパーティーを楽



しました。もう会えなくなってしまう人達もいました。寂しくなって自然と涙が流れました。別れを惜しみつつ、Farewell パーティーは終了。その後、24時間営業のショッピングセンターで夜中まで買い物をして楽しみました。

翌日、いよいよホストファミリーとお別れ。もう涙が止まりませんでした。「絶対、また会おうね。」と約束しました。お世話になった方たちに感謝の気持ちを伝えなかったけれど「Thank you」としか繰り返すことができなくて悔しかったです。

今回、この派遣事業に携わって下さったみなさん、感謝しています。そして何より Dundee のみなさん、私を受け入れてくれた Layton Family 本当にありがとうございました。今後、もっともっと英語を勉強して、またいつか今回のメンバーで Dundee に行きたいです。



HIRASAWA MOMONA

# See You Again !!



分水中学校 3年 古瀬博規

7月27日、僕は約10時間のフライトの後、アメリカの地に立つことができた。そして、税関を終えて初めて見たアメリカの景色は、左ハンドルで道路の右側を走るたくさんの車だった。それを見た瞬間に、僕はアメリカに来たという実感が湧いてきた。「ここは日本じゃない。アメリカなんだ・・・」



僕のホームステイ先の家族は、子ども4人の6人家族と、とてもにぎやかだった。とても親しみやすく元気な長兄 Theron、その兄といつでも一緒に仲良くしている Will、活発でかわいい女の子 Jordyn、兄の二人の後をひよこひよこついてく Eli、料理上手でいつもきれいなお母さん Julie、そして優しくて強くてかっこいい頼りになる父さん Seth。みんな僕のことを本当の家族のように接してくれた。

初日のホストファミリーとの対面式でいきなり Theron に話しかけられた。本当に何も聞き取れなかった。その時は正直怖くなって、その場を逃げ出したくなるような感情だった。しかもその後、「Yes」と一番やってはいけない曖昧な返事をしてしまった。その返答に困っている Theron の顔を今でもはっきり覚えている。そして、対面式も終わりホストファミリーの車に乗り、いよいよ言葉の通じる人が一人もない状況になった。なかなか会話も飛び交わなかった。家に着き、一通り部屋や食事、バスルームなどの説明を必死に聞き取り、グッタリしながらベッドで寝た。

ここから、僕のホームステイは始まった。2日目からは、カヌー、グリーンフィールドビレッジ、トレド美術館、アンアーバー、デトロイト、メジャーリーグ、シダーポイントなどいろいろな場所に連れて行ってもらった。そのどれもが、僕にとっては初めての体験だった。

そんな楽しい毎日はあっという間に過ぎ去り、気付いたらその日の夜にホストファミリーとのお別れ会があった。

「泣いてさよならするぐらいなら、笑顔でバイバイしよう」これは My ポリシーだ。だから、その日は僕もホストファミリーも泣いていなかった。笑顔で一緒に遊んだ。忘れられない素晴らしい思い出になった。こうして、僕の人生最高の夏は終わった。

このホームステイで感じたこと

- 一. 「話すことなんて言葉が通じなくてできる。伝えようとする強い気持ちさえあれば。」
- 二. 「一緒になって遊べば、住んでいる国が違ってたって、話す言葉が違ってたって、だれとでも仲良くできる。」
- 三. 「アメリカは全てにおいてスケールがでかい。」

僕はこの12日間を通して本当にたくさんのことを体験しました。その体験は僕を一回りも二回りも成長させてくれました。このホームステイに携わってくださった方々、本当にありがとうございます。

最後に笑顔でお別れしたいと思います。

Dear My Host Family See You Again!!



# I ♥ AMERICA



吉田中学校 3年 横野 零 亜

私は、この中三の夏にアメリカのダンディで虹色に輝くような素晴らしい思い出をつくることができました。

それもアメリカのホストファミリーのみんなや私たちを支えてくれたみんなのおかげです。何度お礼を言っても言い足りないくらいにお世話になった。本当に心を込めてありがとうを言いたい。



7月27日、私は燕三条駅にいた。すぐに出発の時間となりアメリカへ出発した。飛行機で12時間くらいでアメリカに着いた。意外と早く着いて驚いた。そしてアメリカの空港に着いてもう一つ驚くことがあった。それはトイレの大きさだった。日本とは全く違って本当に大きかった。言葉では表すことのできない大きさで、見てみないと実感できない大きさだと思った。次にデビッドさんと会って車に乗ってダンディ村へと向かった。アメリカは、左に運転席があるので何か不思議な感じがした。車の中でデビッドさんはいろいろ話をしてくれたけど、私たちは日本とは違うアメリカの景色に夢中になっていた。デビッドさんごめんなさい。そんなことをしているとすぐにダンディ村のミドルスクールに着いた。それからウェルカムパーティーがあった。初めてホストファミリーに会う時は、すごく緊張していたことを今でも覚えている。でも、そんな緊張はすぐに解けた。みんな優しく、笑顔が素敵でこのホストファミリーの方々なら絶対に楽しい日々が過ごせる、そう確信しました。ウェルカムパーティーが終わった後、みんなそれぞれがホストファミリーの家に行った。

初日は日本からのプレゼントを渡そうと思い英語で言おうと思ったけど、全然伝わらなくて本当に大変だった。でも、アメリカのママもパパもエミリーもすごく優しくしてくれて、英語も少しずつ聞き取ったり、話したりすることができてきた。ホストファミリーのみんなには本当に感謝したい。ありがとうと言いたいと思う。2日目からもとっても楽しい日々が続いた。

2日目は、カヌーをしたり、オールドミルという歴史博物館みたいなところで勉強した。カヌーは大雨で大変だったけど、水のかけあいっこみたいなことをしてとても楽しかったし、オールドミルでは、教会の鐘を鳴らしてとても楽しかったし、歴史を英語で勉強してとても良かった。

3日目は、グリーンフィールドビレッジに行っているいろんなことをした。そこで食べたホットドックの味は絶対に忘れないと思う。

4日目は、アートミュージアムとペイントをした。アートミュージアムで初ピカソを見て感動だった。ペイントはハートのお皿にバラの絵をつけてピンクで塗った。とても可愛いお皿になって良かったと思う。

5日目は、ホストファミリーとの休日を過ごす日で、みんなで動物園と買い物に行った。動物園はいろいろな動物を見てすごく楽しかったです。お昼はアップルビーというお店でチキンバスケットを食べた。とてもおいしかった。

6日目もホストファミリーとの休日だった。この日は朝早くから初の乗馬をして予想外の楽しさだった。午後からはホストマザーのお母さん、つまりお婆ちゃんの誕生日パーティーがあった。とても楽しかった。

7日目と8日目は水泳をしたり、バーベキューパーティーをしたり野球を見たりして、いろいろな体験をさせてもらってとても楽しかった。

9日目は、シダーポイントで本当に楽しかった。子どもたちとの距離も縮まった気がしたし、夜中までみんなで騒げてとても楽しかった。

最終日は、リトルフィールド家でバーベキューパーティー。里緒ちゃんが日本から持ってきた「そうめん」を食べた。すごく厚いお肉も食べれたし、ケーキも食べれたので、みんなで最高の最終日を過ごすことができたと思う。その後、3家族で買い物に行って夜中まで騒いだことを絶対忘れない。

私はこの中三の夏、本当に素晴らしい思い出をつくることができた。それはこの思い出に関わってくれたみんなのおかげだと思う。私は一生で一番大切な宝になるものを手に入れることができ、世界一幸せなんじゃないかと思う。何度言っても本当に言い足りないと思う。ありがとう。私は最終日泣きながら英語でみんなに「ありがとう」と言った、あの日あの時を決して忘れない。

心を込めて最後にみんな本当にありがとう。



## ブリスベン派遣生体験報告

|                              |              |       |    |
|------------------------------|--------------|-------|----|
| 私の宝物……………                    | 小池中学校 2年     | 阿部りこ  | 14 |
| ありがとう……………                   | 分水中学校 3年     | 大森若菜  | 16 |
| 思い出ばかりの11日間 ……               | 分水中学校 2年     | 金井美樹  | 18 |
| 『海外派遣事業に参加して』……………           | 分水中学校 2年     | 岸本克佳  | 20 |
| I♥ Brisbane ……               | 分水中学校 3年     | 佐藤桃子  | 22 |
| My Treasure ……               | 分水中学校 3年     | 志田佳名子 | 24 |
| I♥ My Family ……              | 燕中等教育学校 3年   | 高頭舞   | 26 |
| 楽しすぎたブリスベン……………              | 燕中等教育学校 3年   | 橘咲子   | 28 |
| ブリスベンでの思い出……………              | 新大付属長岡中学校 2年 | 田中舞   | 30 |
| かけがえのない思い出……………              | 小池中学校 2年     | 田中真央  | 32 |
| Beautiful summer vacation …… | 燕中等教育学校 3年   | 土田佳奈  | 34 |
| 最高の思い出……………                  | 燕中学校 2年      | 野澤竜也  | 36 |
| 貴重な体験……………                   | 燕中学校 2年      | 長谷川千華 | 38 |
| オーストラリアでの思い出……………            | 分水中学校 3年     | 古澤美里  | 40 |
| Thank you♥ ……                | 分水中学校 3年     | 山田夏美  | 42 |
| 日本では経験できない11日間 ……            | 分水中学校 3年     | 山田真子  | 44 |

## 燕市海外派遣事業(オーストラリア・ブリスベン方面)日程

| 月 日<br>(曜)  | 都 市 名                                                                          | 現地時間                                                      | 交通機関                                     | 内 容                                                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7/28<br>(水) | 燕 三 条 駅 集 合<br>燕 三 条 駅 発<br>東 京 駅 着<br>東 京 駅 発<br>成 田 空 港 着<br>成 田 空 港 発       | 14:30<br>15:00<br>17:00<br>17:33<br>18:24<br>21:10        | 新幹線<br><br>成田E X<br><br>JO0761便          | ※団員・保護者集合<br>MAXとき330号にて東京へ<br><br>成田エクスプレス45号にて成田空港へ<br><br>大きな期待を胸に、空路ブリスベンへ〔機内泊〕                    |
| 7/29<br>(木) | ブリスベン空港着<br>ブ リ ス ベ ン                                                          | 7:05<br>午前<br>12:00<br>14:30                              | 専用バス                                     | ブリスベン市内、ローンパインコアラ保護区見学<br>コリンダ州立高校到着、歓迎ランチパーティ<br>派遣生はホストファミリー宅へ〔ホームステイ〕                               |
| 7/30<br>(金) | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | コリンダ州立高校(英語の授業、美術の授業、<br>農場体験授業ほか)〔ホームステイ〕                                                             |
| 7/31<br>(土) | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | ホストファミリーとともに過ごす<br>〔ホームステイ〕                                                                            |
| 8/1<br>(日)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | ホストファミリーとともに過ごす<br>〔ホームステイ〕                                                                            |
| 8/2<br>(月)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | コリンダ州立高校(英語の授業、日本語クラス<br>に参加、音楽の授業ほか)〔ホームステイ〕                                                          |
| 8/3<br>(火)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | コリンダ州立高校(英語の授業、日本語クラスに<br>参加、クッキングの授業ほか)〔ホームステイ〕                                                       |
| 8/4<br>(水)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | コリンダ州立高校(校外活動授業、体育の授業<br>ほか)〔ホームステイ〕                                                                   |
| 8/5<br>(木)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | コリンダ州立高校(映画作成の授業ほか)<br>午後からお別れ会〔ホテル泊〕                                                                  |
| 8/6<br>(金)  | ブ リ ス ベ ン                                                                      |                                                           |                                          | ブリスベン市内観光<br>〔ホテル泊〕                                                                                    |
| 8/7<br>(土)  | ブ リ ス ベ ン<br>ブリスベン空港発<br>成田空港着<br>成 田 空 港 発<br>東 京 駅 着<br>東 京 駅 発<br>燕 三 条 駅 着 | 6:00<br>9:15<br>17:10<br>18:52<br>19:49<br>20:24<br>22:31 | 専用バス<br>JO762便<br><br>成田E X<br><br>新 幹 線 | ブリスベン空港へ移動<br>楽しかった思い出をお土産に空路、帰国の途へ<br>入国手続き終了後、<br>成田エクスプレス46号にて東京へ<br><br>MAXとき349号にて燕三条駅へ<br>到着後、解散 |

# 私の宝物



小池中学校 2年 阿部りこ

私はこの夏、オーストラリアのブリスベンに派遣生として行ってきました。そこで体験したこと、学んだ事など、全ての事が私の一生の宝物になりました。

長いフライトを終え、ブリスベン空港に到着。到着してすぐの頃は、ブリスベンに来たという実感が湧きませんでした。しかし、飛行機から降りると、日本とは全く違い、私の周りは英語で会話する人たちばかりでした。

その後、ローンパイン動物園に行き、日本ではあまり見ることの出来ない動物がたくさんいました。私はそこで、コアラを抱き、記念撮影をしました。コアラは人間の赤ちゃんみたいでとてもかわいかったです。また、カンガルーに触れることはできませんでしたが、とても近くまで行くことができました。



午後、コリンダ高校へ行き、私のスクールバディの Kate と Roseanne に学校を案内してもらいました。彼女たちは、私に優しく接してくれ「英語をたくさん話しましょう。」と日本語で言ってくれました。私はとても緊張していたのですが、彼女たちのおかげで、すぐに仲良くなる事ができました。

そして、この日一番緊張した時間。ホストマザーの Lyndal は、とても陽気でいつも笑顔の優しい人でした。長女の Tara はとても絵がうまく、私にたくさん話しかけてくれる美人さんでした。長男の Lachlan は、いつもおもしろい事をしてくれる、とても面白い人でした。三人とも、私にたくさん話しかけてくれましたが、私はホームステイ後すぐの頃は全く聞き取れませんでした。ここで、Tara が得意の絵でオーストラリアなどについて教えてくれます。また、私もだんだんホストファミリーの人たちが何を言おうとしているのかと感覚的にわかるようになりました。

休日には、山や滝を見に行きました。高い山の上から数百メートルもの下に落下していく滝の姿には感動しました。また、自然がいっぱいで美しかったです。翌日、Lyndal とショッピングに行きお土産をたくさん買いました。Lyndal と、たくさん話をしてさらに仲良くなれたと思います。

時間が経つのはとても早く、ホームステイ最終日にはホストファミリーがプレゼントをくれました。その中で、やはり一番うれしかったプレゼントは“Letter”です。それを読んで私は泣きそうになってしまいました。おまけに、Tara が何回もハグをしてくれたので本当に泣いてしまいそうでした。でも、私は、泣いてお別れするのが嫌だったので頑張ってこらえました。泣いてしまうと、もう二度と会えないという感じがしたからです。



コリンダ高校最終日には、「さよならパーティー」を開いてもらいました、そこで、私たちはお世話になった人たちに感謝の気持ちを込めて、「ふるさと」などを発表しました。パーティーに来てくれた人たちに、感謝の気持ちが伝わったと思います。その後、Lyndal と Tara と話し、最後のお別れをしました。スクールバディの二人やお友達になった人たちとも話をしました。その時、Kate が春巻きを作ってくれました。とてもおいしかったです。出来ればですが、また食べたいです。

さよならパーティーも終わり、お別れが近づいてきました。ホストファミリーとの最後のハグをした時、泣かないと決めていたのに泣いてしまいました。すると、Lyndal が泣いてくれました。私もまた、涙を流してしまいました。

Lyndal、Tara、Lachlan、Kate、Roseanne、ありがとう。私は絶対に、オーストラリアで過ごした時間を忘れません。

Thank you so much.



ABE RIKO

# ありがとう



分水中学校 3年 大森若菜

いま振り返ってみると心によみがえってくるのは、オーストラリアの人々との交流です。

心に残る交流①「スクールバディーとの学校生活」

平日は、学校に通いました。私のスクールバディーは、ケイトとローゼン。16歳の女の子です。顔は日本人のようでした。

ケイトもローゼンも明るい性格です。ケイトは学校の売店のアイスコーヒーが大好きです。ローゼンは日本のアイドルやドラマをよく知っています。



休み時間になると、いろいろな話をしましたが、特に恋愛の話で盛り上がりました。自分の好きな人を教えたり、ケイトの恋人を見つけたり、校内のかっこいい人の話をしたり……。学校には、日本語の先生がいて、日本語を習っている生徒がいました。なので、ケイトとローゼンをはじめ、その他の人たちとも日本語を交えて話ことができました。

私たちの年代は、何処の国の人でもこういう話題で盛り上げられるんだなあと思いました。私は毎日、ケイトとローゼンたちに会う時間が楽しみでした。今でも思い出すと、あのころに戻りたいと思っています。

心に残る思い出②「ホストファミリーとのふれあい」

私がお世話になったファミリーは、お母さんの Lyndal、お姉ちゃんの Tara、弟の Lachlan の三人家族でした。Lyndal と Tara は、背がとても高く、モデルのようにきれいでした。Tara は 17 歳。画家を目指しているそうです。神秘的で美しい絵を描いていました。Lachlan は 14 歳。お土産の紙風船を Tara にぶついたりする、やんちゃな子でした。夜はみんなで人生ゲームやポケモンのモノポリーをしました。ポケモンのモノポリーは親しみが持てました。日本のキャラクターがオーストラリアにまで行き、受け入れられていることに驚きました。なんだか嬉しい気がしました。モノポリーにはゴールがなく、全然終わりませんでした。眠くなりながらも、みんなでやっていました。

モノポリーも人生ゲームも、ファミリーの表情や動作で、どんなマスなのか判断することができました。ファミリーに限らず、オーストラリアの人たちは、表現力が豊かな人が多く、とても明るい雰囲気でした。

この二つのゲームで、ホストファミリーとすごく仲良くなれた気がします。

心に残る交流③「お別れパーティー」

学校最後の日には、お別れパーティーがありました。私たちは、グループに分かれて出し物を披露しました。私たちのグループは、「ふるさと」を歌い、「チューチュートレイン」を

踊りました。練習の甲斐あって、本番では何とかうまくでき、一安心でした。暖かい拍手がもらえて、嬉しかったです。

最後に、ケイトやローゼンたちとお互いの連絡先を交換しました。ほんの一週間ちょっとでしたが、別れが惜しくなるほどオーストラリアの人たちが大好きになってしまいました。

お別れパーティーが終わり、いよいよ出発の時になりました。バスに乗るとき、いろいろな人が抱きしめてくれました。ありがとうという気持ちがあふれ、涙が出てきました。

こうして振り返ると、私はオーストラリアでたくさんの人と出会い、お世話になりました。最初からスムーズに交流できたわけではありませんが、お互いに心を開くことによって、だんだん慣れ親しんできました。そして方言の言葉でも通じ合うことができました。それがとても嬉しかったです。

私はオーストラリアでの経験を生かして、これからも人々との交流を大切にしていきたいと思います。それが一番楽しくて、あたたかくて、幸せなことなのだと思います。

大切なことを教えてくださった、オーストラリアのみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。

今度は、もっと英語が上手になって、また会いに行きたいです。



# 思い出ばかりの11日間

~~~~~

分水中学校 2年 金井美樹

オーストラリアへ行くことの期待と不安を抱えて、日本を旅立った7月28日。飛行機の中でワクワクとドキドキを膨らませていました。

オーストラリアに着いてまず、動物園に行きました。タスマニアデビルやウオンバットなど日本では見る事の出来ない動物がたくさんいて、なんと、カンガルーと触れ合うこともできました。ですが、肝心のコアラとの写真撮影は「高いから」という理由で、してきませんでした。今思うとバカでした・・・。



次に学校に行きました。とても広い学校でちよくちよく迷いました。授業では、写真を撮ったり、ファームに行って動物のお世話をしたり、クッキーを作ったりしました。どれも新鮮で面白かったです。校内にファームがあって、しかも牛や鶏や羊がいたことに驚きました。他にも、生徒2人と質問をし合う授業では「日本のアニメをしていますか？」と英語で尋ねると、意外とワンピースやブリーチなどのアニメ、キャラクターを知っていて、日本のアニメは人気なんだなと実感しました。

私がホームステイした家庭は、お母さんのジル、お父さんのデイビット、長男のロバート、長女のジェイシー、次男のマイケル、そして犬のバディ、猫のジンジャーと、とても賑やかな家庭でした。ちなみに、お兄ちゃんのロバートはケンタッキーでハイトをしているようです。

ホストファミリーには、いろいろな所に連れて行ってもらいました。中でも思い出に残っているのが、お父さんとマイケルとフェリーに乗ってマーケットに行ったことです。お店が沢山出ていて、見ていて楽しかったです。そこで買ったチュロスを原っぱで食べました。甘くておいしかったです。そして、ロバートは来れませんでした。家族でビーチに行った事もとても思い出に残っています。ちょうど夕暮れ時だったので、海に夕日が沈んで、とてもきれいでした。そこで驚いたのが、オーストラリアの砂は踏むと音がする！という事です。歩く度に、キュッキュッと音がして面白く、何度も足踏みをしました。お母さんのジルが砂で城を作っていたのも面白かったです。

家では、マイケルと一緒に色々なことをして遊びました。日本で言う「鬼ごっこ」をマイケルの友達「ニック」と一緒にしたり、暗闇のなかでかくれんぼをしたり、キャッチボールをしたり、とても楽しかったです。でも、騒ぎすぎてお父さんに叱られました。

そしておどろいたのが、毎日、夕食を食べ終わると、家族皆で映画を見るという事。日本はそういう事はあまりしないなあとその時は思いました。国によって文化も習慣も違うなんて、面白くて不思議です。お風呂が5分だったことにも驚きました。いつもは30分くらい時間をかけているのでちょっと大変でした。朝は、バスに乗って学校まで行くので、間に合うように6時起きだったのも辛かったです。でも、寒い日は町が霧で覆われてキレイだったので、早起きも悪くないなと思いました。

学校に行くにつれて、声をかけてくれる人も多くなり、購買に寿司が売っていることを教えてもらって買ったり、現地の子と一緒にランチを食べたり・・・。

家に帰っても、初めは緊張しましたがすぐに慣れ、我が家のように過ごすこともできました。まるで二つ目の故郷が出来たような感じがしました。

あっという間に、ホストファミリーと現地の友達とのさよならパーティーの日。こんなにも早く毎日が過ぎたのは初めてでした。

私たちは「チューチュートレイン」を踊ることになっていたのですが、特に私にたくさんの質問があり、直すのが大変で、毎日のように練習していました。とうとう当日になり、大勢の人の前で踊るということは初めてだった私にとって、頭の中が真っ白になるのは簡単でした。周りの人を見ながらなんとかやり切って、皆がたくさん拍手をしてくれて嬉しかったです。その後、それぞれの家族との別れになり、絶対に泣かない！！と思っていたのですが、呆気なく泣いてしまいました。いろんな想いが混じって、何と言っていいのか分からず、とにかく泣きました。別れ際に、ジェイミーとジル母さんから抱きしめてもらい、またそこで号泣。もう二度と会えないかもしれない・・・とネガティブに考えてしまい、余計に涙があふれました。

でも、いつかはまた絶対にオーストラリアに行って、ホストファミリーの皆と再会したいです。今でもそう思っています。

私にとってこの11日間は、とても楽しく、かけがえのない思い出です。仲良くしてくれたコリンダ学校の友達、本当の家族のように受け入れてくれたホストファミリー、海外派遣をサポートしてくれた方々、そして、オーストラリアに行かせてくれた家族のみんな。心からありがとうと言いたいです。いや、言います！！

Thank you very much！！また会う日まで、さようなら、オーストラリア！！



KANAI MIKI

『海外派遣事業に参加して』

~~~~~

分水中学校 2年 岸本克佳

飛行機に乗って海をこえ、僕はオーストラリアのブリスベンに来た。これが初の海外だったのでこれからの事を思うと、とてもわくわくした。だが初日は緊張ばかり。ホームステイ先の子どもの Patrick と一緒に校内を廻った時に、その生徒たちからいろんな事を聞かれたが何と言っているのか全く分からず、恥ずかしがってばかりだった。本当にこの人たちと10日間も一緒に生活が出来るのかと不安になった。

その日の学校が終わり、ホームステイ先の家に行った。家にはプールがあり、高級車2台、犬が2匹、ジムがあり、中にはトレーニングマシンが何台もあり、庭には何本も高い木が植えてあった。May 家は言うまでもなく、すごいお金持ちだった。しかも泊まったのは僕と野澤君だったが、1人に1部屋ずつ貸してくれた。



ホストファミリーは、父の Peter さん、母 Ashley さん、兄の Patrick、弟の Michell でした。父の Peter さんは後に調べると、不動産会社の社長で、しかも副地区知事という職に就いていた。母の Ashley さんは家にあるジムを開いてトレーニング方法を教えていた。たぶん職業はジムのトレーナーだと思う。Patrick は13歳と僕と同じくらいで、Corinda high school の生徒だ。Michell は10歳だ。May 家はみんな優しく接してくれたので、すぐに慣れることができた。また丁寧に言ってくれたので、聞きやすく、返事を返すことが出来た。僕にとって少し気がかりなことがあった。それは家に犬がいたということだ。僕は猫や犬の毛がダメで、せきが出るなどの症状が現れることがあった。なので、このことをホストファミリーの人にどうにか伝えようと思い、僕はお母さんに、“I have dog allergy” と言い、せきをするまねをした。するとお母さんはうなづきながら、“allergy” と言った。たぶん僕のいう事を分かってくれたのだろう。後々、添乗員さんに聞くと “I’m allergic to dogs” が正しい文だと言っていた。このことから文にならなくても、いくつかの単語とジェスチャーを組み合わせれば、大体の言いたいことを分かってくれるんだなと思った。これで自信がついて積極的に会話ができるようになった。

ホストファミリーには、土日に色々な所に連れていってもらった。砂浜は白く細かったし、海も青く、とてもきれいだった。ただ寒くて泳げないことが残念だった。午後にはお父さんと Patrick と一緒にフットボールの試合を見に行った。それは、Brisbane Lions のホームゲームだった。ボールはラグビーボールと同じような形だったが、フットボールは前にパスすることができた。フットボールはスピーディーでたくさん点が入るので面白かった。この2つは忘れられない思い出になった。

もう1つ印象に残ったのは食事だ。家で食べる時はたいていステーキだった。肉ばかりで食べれないかと思ったが食べれた。またハンバーガーを食べてみたが、とても大きくてビックリした。食べようとするアゴがはずれそうになるくらいとても大きかった。

日本ではおやつ感覚で食べていたが、オーストラリアの人は、これを主食だと思って食べているんだろうなと思った。また炭酸飲料を1日3缶も飲んだのですごくきつかった。クッキーは油っこく、チョコレートは甘かった。僕はこれ以上、食事を耐えられないと感じた。

僕は、オーストラリアに行って、言葉や文化は違うけれど、一緒に笑ったり、泣いたり、遊んだりすることが出来るという事がわかった。この世界には、いろんな大陸や島があり、そこにいろんな人が住んでいる。オーストラリアにいて、いろんな国に行って、文化や生活の様子を見てみたいと思うようになった。



KISHIMOTO KATSUYOSHI

# I ♥ Brisbane



分水中学校 3年 佐藤桃子

私は、ブリスベンに行った11日間たくさん  
のことを学び、たくさんの方とふれあい、とて  
も貴重な体験をすることができました。

貴重な体験の中のひとつはブリスベンでの学  
校生活です。初めて見たとき「広い!!」とい  
う印象を受けました。そして先生方も優しい  
先生だったので、安心して授業に取り組みまし  
た。たくさん授業を受けた中、印象に残った授  
業は三つありました。それは、先生が教えてく  
れたゲームと調理の授業とスポーツの授業です。



先生が考えてくれたゲームはどれも面白いも  
のばかりでとても楽しめました。ひっかけりや  
すいゲームだったので苦戦ばかりしました。  
日本でも暇なとき、このゲームをしたいです。

調理の授業では、ビスケットを作りました。作  
り方はとても簡単で事前に用意されていた材  
料を混ぜ、材料を型に流し込み、焼くだけで  
した。私はお菓子を作ることが大好きだった  
のでみんなと楽しみながら調理することができ  
ました。味は日本と違い少しやわらかいビス  
ケットでした。私的に好みの味でもあり、と  
てもおいしくいただくことができました。

そしてスポーツの授業では、日本でいうラグ  
ビーのようなものを行いました。私は初めて  
だったので、最初は何をやるのか分からな  
かったけど、生徒さん達が優しく教えてく  
れたので最初のときより理解できました。日  
本では女の子がこのスポーツをするのを見  
たことがなかったので少し驚きました。日本  
でも広めていきたいです。

授業の他にもスクールバディと一緒に過  
ごした時間はとても楽しかったです。「おに  
ごっこ」をしたり、お話をしたりしました。  
スクールバディの他にも学校の生徒はみな  
優しく明るい人ばかりでした。通りかか  
るとあいさつをする人が多く日本とは少  
し違うところもありました。学校は初  
めてすることが多かったので、いい経験  
となりました。

貴重な体験に中のもうひとつはホスト  
ファミリーと過ごした時間です。会う前は  
英語がちゃんと伝わるか、やさしい人  
達なのかと不安な点がたくさんありまし  
た。ですが、実際に会ってみると、とて  
も優しく明るい人たちだったので安心し  
て過ごすことができました。特に印象に  
残ったことが三つありました。一つは食  
事です。日本とは違う点がありますが、  
とてもおいしくいただくことができました。  
驚いたことに、お米が食事の中に出て  
きました。お米は日本とは違い少しパ  
サパサした感触でした。とくに美味し  
かった料理は魚をフライにした料理  
です。外がサクサクで中がふくらんで  
いて、今でもまた食べたいと思える  
料理でした。

三つ目は家で遊んだことです。家はもの  
すごく広く、ホテルのようなきれいな  
家でとても驚きました。そして庭には  
トランポリンやブランコがあったので、  
それを使い遊びました。子どもが3  
歳と5歳だったので楽しく遊ぶことが  
できました。無邪気な様子がとても  
可愛かったです。

そして三つ目がお別れの時です。残念  
ながら、さよならパーティーにこれな  
ったので、



さよならパーティー前日の夜にお手紙をくれました。とても心がこもったお手紙でとても感動しました。私からもお手紙をあげたら、とても喜んでくれました。

今回こんな体験をすることができて本当に良かったです。ホームステイをすることが昔から夢だったのでそれを実現できたことが、何より幸せでした。これからも夢を実現させるように日々努力していきたいです。

素敵な宝物をくれたブリスベンの方々、Thank you very much ♡



SATO MOMOKO

# My Treasure



分水中学校 3年 志田 佳名子

私はこの夏、オーストラリアで多くの思い出をつくってきました。そして、この思い出は忘れることの出来ない宝物です。この思い出の中で最も印象深かったことを二つ紹介します！！

一つ目はホストファミリーの家族と過ごしたことです。私の家族は、ママのルミラ、13歳の女の子のタリタ、そしてペットのグロリアとビルの素敵な家族です。残念ながら、パパは飛行機関係の仕事でパプアニューギニアに行って会うことはできませんでした。でも、ママの話を知っていると、とても仲良しの家族だなと感じました。ママは、いつも私たちのことを考えてくれて、毎日ショッピングに連れていってくれたり、おいしいごはんをたくさん作ってくれました。ショッピングではいつも違うスーパーや植物園、オーストラリアの中心街へ連れて行ってくれました。スーパーはどこもとても大きく、その土地ならではのものが売っていました。もちろん、食べ物も外国へ行ったなと感じさせる、ビックサイズのものばかりでした。



ママの作った料理は最高においしく、幸せな時間でした。私たちのママはブラジル人ということもあり、お米をたくさん出してくれました。中でもお肉を使ったハンバーグが最高においしかったです。お米やハンバーグは、日本とは少し違う味でしたが、日本人の口に合うものばかりで、食べやすかったと感じました。このように、食の点でオーストラリアの文化にふれることができたと思います。

13歳の女の子タリタは、シャイで静かだけど、一つ一つの瞬間をいつも楽しんでいて、すぐに打ち解けることができました。タリタと同室の橘さんは、卓球・折り紙・コスプレ・DVDを見たりして一緒に遊びました。卓球は、ほぼ毎日して遊んでいました。ママは卓球がとても上手で驚きました。タリタは最初、ラケットに当てる事さえ困難だったのに、毎日やっていると、とても上手になっていきました。私たち2人も、夜な夜な卓球をしていました……。タリタが楽しそうに卓球をしている顔を見ると、私まで楽しくなりました。私が上手に英語で言葉を伝えることができなくても、卓球を通じて会話できていたような気がします。「スポーツは世界共通」だと改めて感じました。

また、折り紙遊びでは、鶴やきつねを折りました。タリタにとっては、初めてのチャレンジする折り紙です。「紙と紙をしっかりと合わせる」ということがきちんと教えられず、上手に折ることはできませんでした。それでもタリタが私たちの話す英語にしっかりと耳を傾けて聞いてくれて嬉しかったです。タリタと遊んだ時間はとても楽しく、良い思い出ができました。

二つ目に印象深かったことは、私たち派遣生が通ったコリンダ高校での出来事です。コリンダ高校は、日本でいう中学生と高校生が通う学校です。生徒たちは、私たちを見かけると積極的に話しかけてきたり、手を振ってくれたりしました。とても積極的だったので、

「一緒に写真を撮ってくれないか。」

と私も気さくに話しかけやすく、たくさんの生徒との写真が撮れました。コリンダ高校では驚いたことも多くありました。モーニングティータイムがあること、授業は四時間目までしかないこと、掃除がないことなど、さまざまな面で驚きました。モーニングティータイムとは、おかしを食べたり、ごはんを食べたり、遊んだりと自由な時間の事を言います。明るく、気さくな生徒たちのおかげで、楽しく充実した学校生活を送れました。

オーストラリアに行き、今まで知らなかった新しい世界を見ることができました。「また、オーストラリアに行きたい！！」という夢もできました。そのために、今後英語力を高め、今以上に英語で会話できるようになって、また、オーストラリアを訪れたいです。この海外派遣事業に参加でき、本当に幸せです。

「ママ、いつも私たちにやさしく、素敵な時間をありがとう。」

「タリタ、一緒に遊んだ楽しい時間をありがとう。」

引率者の平松さん・松本さん、添乗員の鈴木さん、派遣生のみなさん、ありがとうございました。

“This summer’s memory is my treasure ♡



SHIDA KANAKO

# I ♥ My Family



燕中等教育学校 3年 高頭 舞

今年は今までで一番楽しくて、幸せで、終わるのがあっという間な夏休みでした。この夏休みの7月28日から8月7日の11日間で私は数えきれない程の体験と、思い出を作ることができました。

7月28日(水):何週間も前から楽しみにしていた出発の日です。飛行機に乗ると、日本を離れるんだなぁと実感しました。

7月29日(木):飛行機を降りてすぐに動物園へ向かい、コアラやカンガルーに会ってきました。それから学校に行ってランチを食べ、スクールバディーに学校内を案内してもらいました。コリンダ学校という大きな学校でした。日本とは違う校風で全体的に〈自由〉というイメージでした。コリンダ学校では日本語の授業をしているということもあり、歩いていると皆が「こんにちは」と声をかけてくれて、フレンドリーだなぁと感じました。2:30に学校が終わってホストマザーが迎えに来てくれました。家に向かっている車の中で「どこかにいきたいところはある?」と聞かれたので、「大きなショッピングセンターに行きたい」と言ったら、土曜日に連れて行ってもらえることになりました。他にも、私の家族やロジャーズ家の話をしていたらすぐに家に着きました。ロジャーズ家には、ファザー・マザー・ロバート(18)・ジェイミー(16)・マイケル(10)と、犬のバディー・猫のジンジャー・ジェイミーが飼っているヘビ・魚がいました。すごくにぎやかな家族で、毎日が楽しかったです。夕食はファザーが作る事が多くて、いつも美味しかったです。家族で毎晩映画を見ることが日課のようでした。私は美樹(一緒にホームステイしていた金井美樹さん)と話をしたり、一緒にバディーと遊んでいました。



29日~30日&2日~4日:朝は6:30に起きて制服に着替え、朝食を食べて7:20に家を出ました。ジェイミーと美樹と3人でバス停まで歩いてバス通学していました。学校では英語の授業でゲームをしたり、体育でネットボールをしたり、クッキー作りをしました。

コリンダ学校にはランチタイムの他に、モーニングティータイムという長い休み時間があることと、お菓子などを持ってきても良いということに驚きました。一緒にたくさん写真を撮ったり、オーストラリアでやっている日本のドラマの話で盛り上がったり、本当に楽しかったです。売店にお寿司が売っていたので買って食べたりもしました。帰りに海やおもちゃ屋に寄った日もありました。

7月31日(土):ジェイミー・美樹・私でバスに乗ってショッピングセンターに行きました。たくさんあるお店の中でおもちゃ屋ではコスプレがたくさんあってかわいかったです。お菓子屋は、日本ではあまり見ない感じで、すごくカラフルでした。美味しいのかよく分からないようなものも、見た目がかわいくてたくさん買ってしまいました。

8月1日(日):ファザー・マイケル・美樹・私でCity Catに乗って、ブリスベンのマーケットに行きました。今まで見たことのないくらい大きなマーケットでお店がたくさんありました。お昼にはピザとポテトとシェイクを買いました。ポテトはSサイズを美樹と割り勘

しましたが、それでも多かったです。チュロスの屋台もあったので食べました。

8月5日（木）：さよならパーティーでマザーとジェイミーと話しているときに、今日でお別れなんだと思ったら涙が止まりませんでした。さよならをするのが本当につらかったです。

8月6日（金）：ブリスベン観光をしました。ホストファミリーと出かけた時にお土産をたくさん買っていたので、観光ではあまり買いませんでした。二泊したホテルでは、皆といっぱい話せて楽しかったです。

8月7日（土）：朝から空港に行き、飛行機に乗り、夜には燕に帰ってきました。オーストラリアと違って日本はすごくジメジメしていました。

この11日間で本当にたくさんの事を学びました。オーストラリアでの思い出は絶対に忘れることのできない宝物です。ホームステイに参加してよかったと心から思います。もっと英語を勉強して、自分の言いたいことをもっともっと伝えられるようになったら、またロジャーズ家に会いに行きたいと思っています。

I always hope to return to Australia . . . . .



TAKATO MAI

# 楽しすぎたブリスベン

~~~~~

燕中等教育学校 3年 橘 咲子

私は、11日間オーストラリアのブリスベンに滞在しました。この旅は、私にとって大切な思い出になりました。ホームステイ先での国が違うだけで日常生活がこんなにも変わるのだと初めて感じました。

まず、日本に比べて道路がゆるやかでした。坂も多く、休みの日にはホストマザーにドライブに連れて行ってもらった時は風が気持ち良かったです。私は車で学校まで送ってくれた時間が好きでした。車の中で外を見ていて、何日かすると道が分かってきたのが嬉しかったです。学校へ行く前に友だちと公園で遊んでいたり、スケボーで登校している子など、日本では見るこののできない光景でした。車の中でもホストマザーとタリタと話せて楽しかったです。



次に家での生活です。寝る時間はいつも10時でした。最初は早いと思っていたけれど、そんなことはなく、ぐっすり寝ることが出来ました。食生活も日本と全く違い、朝は毎日シリアルでした。私は和食が大好きなので、行く前からオーストラリアの食生活に慣れるか不安でした。でも、ホストマザーは私たちのことを考えてくれて、昼食や夕食にはごはんを出してくれた日が何日かありました。初日の夕食にごはんが出された時、ホストマザーの優しさにごはんの温かさに涙がでそうなくらい嬉しかったです。ごはんが終わった後や、学校から帰ってきた後には、ほぼ毎日デパートへ行ったり、日本では夜あまり出かけていなかったのが新鮮で楽しかったです。

私が、一番思い出に残っているのは、現地のコリンダ学校での生活です。コリンダ学校の生徒は、日本人の私たちに対して、通りかかるたびに“Hello”と声をかけてくれました。中には日本語を話せる子もいて「こんにちは」と言ってくれた人もいました。ただそれだけのことで、私も気が楽になりました。私たちが「一緒に写真を撮ってくれませんか？」と聞いたら、気さくに“OK”と言ってくれて、たくさんの生徒と仲良くなれました。コリンダ学校の生徒は男女の仲も良く、年の差も感じられないくらい楽しそうでした。その雰囲気は私の学校では見られない光景でした。授業も、コリンダ学校の先生の教えてくれたゲームや歌はいつも盛り上がりました。ゲームで勝つと先生はお菓子をくれました。そういうところが先生のとてともフレンドリーなところで、授業がいつも楽しみでした。楽しみながらも知らなかった単語や時間の言い方などを学ぶことができました。他にも、美術では今までにやったことのない方法で絵をつくりました。家庭科の時間では、オーストラリアのビスケットを作りました。味は甘くてザクザクしてて、食べごたえがありました。体育では、コリンダ学校の子と一緒にバレーボールをしました。男子が多くて、ボールは怖かったけれど、生徒はみんな楽しそうでした。

この旅を通して、他の人の良いところをたくさん見つけることが出来ました。ホストマザーの優しさ、コリンダ学校の明るく気さくな生徒と先生。他にもまだまだ良いところがたくさん

んありました。オーストラリアを離れるのはとてもつらかったけれど、絶対にまた行きたいです。本当にこの海外派遣は最高でした。私にとって生涯忘れられない思い出です。ありがとうございました。



TACHIBANA SAKIKO

ブリスベンでの思い出



新大付属長岡中学校 2年 田中 舞

「英語を使い、自ら進んで現地の方々と交流したい。」そんな思いで、私は海外派遣生に応募しました。受かったときは、嬉しさの反面、本当にブリスベンで11日間過ごせるのかと不安でした。



7月29日。いよいよホームステイが始まりました。最初は緊張もあり、YES、NOと受け答えるので精一杯でした。それでも、ホストファミリーのLaytさん家族は、優しく接して下さい、本当に安心しました。ブリスベンに行く前、感じていた不安も、いつの間にか吹き飛んでいました。

感じていた不安も、いつの間にか吹き飛んでいました。

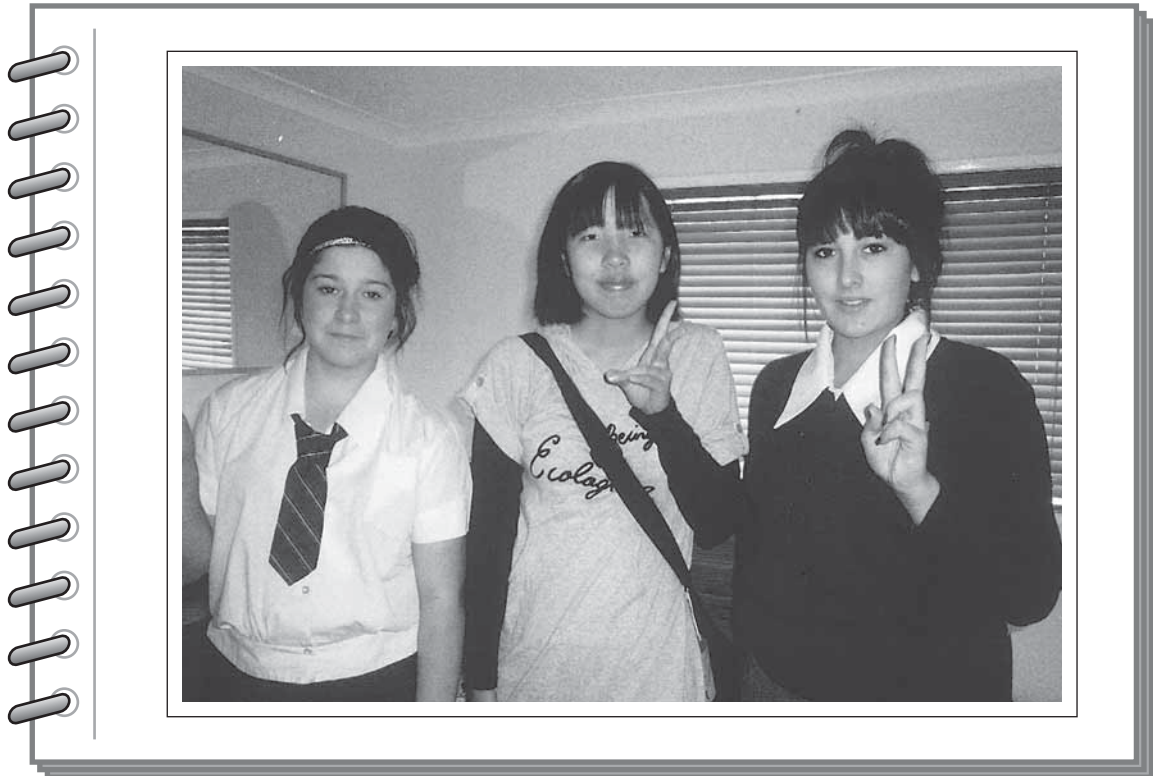
7月30日からは、ホストファミリーのErin、Emilyと一緒に登校し、コリンダ高校で実際に授業を受けました。コリンダ高校の生徒とも交流することができ、とてもよい経験になりました。

ランチの時間になると、いつもErin、Emilyが迎えに来てくれて、Erin、Emilyの友達も一緒にランチを食べました。ランチは毎朝、お母さんが用意をしてくれました。ランチは、いつも大体、リンゴやバナナなどのフルーツ、ゼリー、クラッカーなど、簡単に食べれるものでした。日本のように箱に詰めたりはしません。私は文化の違いを感じました。文化の違いを感じたことは、この他にもたくさんあります。特に驚いたのは、家の中でも、どこでも靴を履いたままということです。日本では絶対に体験出来ない貴重な経験でした。食べ物は、とにかくすごい量で、最初の慣れない頃は、とても食事に時間がかかりました。けれど、気をつけていただき、休日のお昼や夕食では、お米を食べることが多かったです。

そんな楽しかったホームステイの中で、私が一番心に残っているのは「ホームパーティー」です。お母さんのお友達の家で、食べたり、遊んだりしました。全く面識のない私にも、皆さんとてもフレンドリーに接してくれました。とてもうれしかったです。ビリヤードを教えてもらったり、風船を使って大人数で遊んだりと、とても楽しく過ごすことができました。

充実した生活を送った分、8月5日のお別れはすごく切なかつたし、悲しくなりました。コリンダ高校で開かれた「さよならパーティー」には、Erinが来てくれました。私のグループは、「よっちょれ」を踊りました。私はたくさんミスをしてしまったけれど、「よっちょれ」は大成功したと思います。日本の文化を伝えることもできたので、良かったです。

11日間、長いようで、終わってみるとあっという間のブリスベンでの日々でした。振り返ってみると、楽しかった思い出と学んだ事ばかりです。オーストラリアへの海外派遣をする前に私が抱いていた「英語を使い、自ら進んで現地の方々と交流する」という目標も達成することができました。消極的だった性格も、英語でコミュニケーションをすることによって、少しは積極的に変わったと思います。お世話になった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。“Thank you so much.”



TANAKA MAI

かけがえのない思い出



小池中学校 2年 田中真央

私は、面接を受けて見事に合格しました。嬉しい気持ちと不安な気持ちがありました。合格が決まってから出発まであっという間に時間が過ぎていきました。

～7月28日、いよいよ出発の日～

私は外国に行くのは初めてで、もちろん飛行機に乗るのも初めてでした。だから、少し緊張していました。

～7月29日、ブリスベン空港到着～

ブリスベン空港に着き、聞こえてくるのは当然、英語ばかりです。入国審査も英語で話しかけられて、”Hello”としか言えませんでした。

次は、ローンパインコア保護区に行っているいろいろな動物と触れ合いました。

いよいよホストファミリーとホストバディに会える時がやってきました。ホストファミリーとホストバディの方たちは優しく迎えてくださって緊張がほぐれました。

ホストファミリーの家に着き、子どもたちとおばあちゃんとおじいちゃんが迎えてくださいました。日本のお土産を渡すと、とても喜んでくれました。子供たちともすぐ仲良くなりました。とても充実した一日でした。

～7月30日、楽しい学校～

Corinda state high school の生徒さんたちは、フレンドリーに話しかけてくれて、とてもうれしかったです。

～7月31日、休日一日目～

ホストファミリーのみなさんとショッピングに出かけました。日本とは違う建物や電車に感動しました。

～8月1日、休日二日目～

この日もホストファミリーの皆さんと市内へショッピングに出掛けました。歩いている途中にブリスベン川を見ました。大きい川でした。写真をたくさん撮りました。

～8月2日、友達がたくさんできた学校～

ホストバディと一緒にランチを食べている間、たくさんお話をして写真を撮りました。

～8月3日、Harry と Hannah ～

ホストファミリーの子どもたち、Harry と Hannah はとても元気で私たちをいつも遊びに誘ってくれます。今日はいつもよりたくさん遊びました。

～8月4日、感動～

ホストファミリーのみなさんと過ごす最後の夜。ブリスベンでの毎日、楽しくすごせたのは、ホストファミリーの皆さんのおかげだと思います。ホストファミリーの皆さんが私たちのために子どもたちから絵のプレゼントをもらい、お父さんとお母さんから手紙をもらいました。絵のプレゼントと手紙は宝物になりました。感動の夜でした。



～8月5日、別れ～

ホストファミリーとホストバディの方たちとの別れです。悲しいけれど笑顔で別れました。また会えると信じて・・・。

～8月6日、市内観光～

市内観光をしました。存分にブリスベンを楽しみました。

～8月7日、帰国～

ブリスベンでの思い出は忘れません。最高の時をありがとう、また来ます。

オーストラリア・ブリスベンでいろんなことを学びました。将来にしっかり役立てたいと思います。海外派遣生としてオーストラリア・ブリスベンに行けたことをうれしく思います。海外派遣生として行けたおかげでいろいろな方たちに出会うことができました。出会えたことを大切にしてホストファミリーのみなさんやホストバディの方たちにまた会いに行きたいです。

この夏、貴重な体験をさせていただきました。海外派遣に関係してくださったみなさんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。そして、オーストラリア・ブリスベンで出会えた方たちに“Thank you.”



Beautiful summer vacation



燕中等教育学校 3年 土田佳奈

この夏、私はとても素敵な体験をしました。
ブリスベンでホームステイをして、現地の学校にも行きました。たったの11日間でしたが、たくさんの出会いと発見がありました。“第2の家族”ホストファミリー、スクールバディ、コリンダ学校で出来た友達、コリンダ学校の先生、そして一緒にブリスベンに行った他校の友達。この出会いは絶対に忘れません。



私は外国に行ったのは初めてではありませんでした。しかし英語は話しませんでした。だから中学生になって英語を勉強し始めてから、『英語で話してみたい!』と思うようになりました。

この研修でブリスベンに行けることが決まって、嬉しくてとてもわくわくしていました。しかし、その気持ちと同じくらいの不安もありました。

一番の不安は、自分の知っている英語表現だけで生活できるのか、ということでした。他にも食事や気候のことなどたくさんの不安がありました。ずっと自分の英語が通じるかどうか不安に感じていました。

ブリスベンに着いてホストファミリーやスクールバディと会って、その不安は消えてしまいました。「私のこんな英語でも、きちんとわかってくれるんだ!」と感動もしました。

日々の会話の中で新しく単語を知ることができたり、何を言いたいのかが段々わかるようになってきて、まさに「習うより慣れろ」だと思いました。

気づけば、言葉の違いに不安なんて感じずに、自分から話しかけたり質問するようになっていました。毎日がすごく楽しかったです。

学校ではオーストラリアの歌を歌ったり、クッキーを作ったりしました。昼食の前に「モーニングティータイム」があることに驚きました。日本にはないので、何をやる時間なのか分からなくて、いつもお昼ご飯を食べていました。本当は、お菓子を食べる時間でした。しかしスクールバディや彼女たちの友達もランチタイムにお昼を食べていなかった。ランチタイムには学校を案内してもらったり、話をしたり、バスケやテニスと一緒にしました。

スクールバディや彼女たちの友達はたくさんしゃべりかけてくれました。最初の頃は質問されても答えられないことが多くて会話が続きませんでした。ですが、だんだんたくさん会話できるようになって、友達といる時間がとても楽しくなりました。

ホームステイ先では、マザーがとても優しくしてくれました。毎日の食事もおいしかったです。たくさん話しました。

休日にマザーのお孫さんたちが来て、一緒にバーベキューをしました。サッカーをして親交を深めました。持ってきたプレゼントをあげて一緒に遊んだり、折り紙をしました。プレゼントを喜んでくれてすごく嬉しかったです。

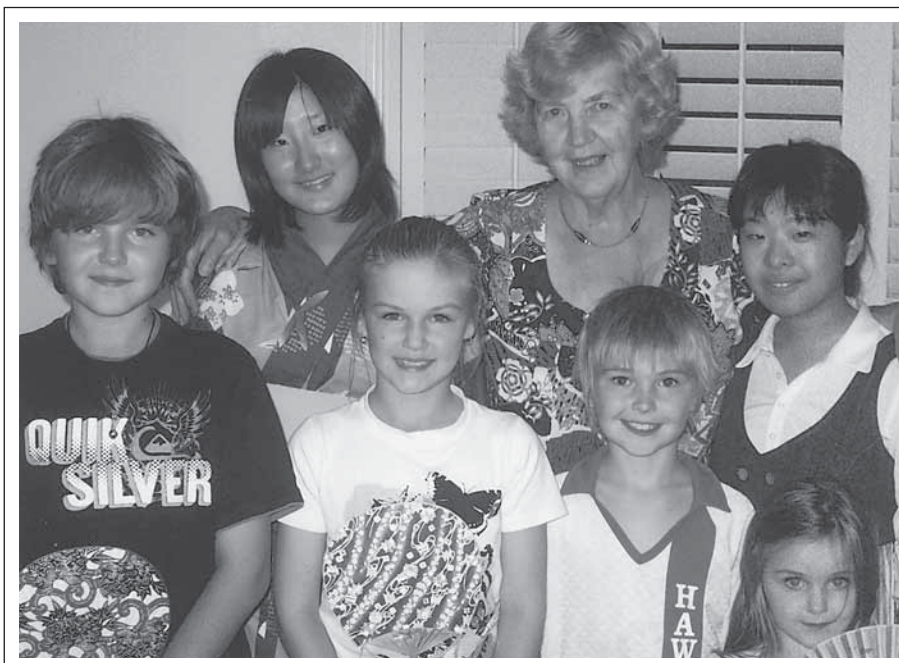
私は日本に帰ってきた今でも、スクールバディとホストマザーとメールをしています。英語で文を考えるのはすごく難しく、すごく疲れてしまいます。それでも、皆とずっとずっ

と繋がっていたいので頑張っています。

もっともっと英語を勉強して、今度は皆に会いにブリスベンに行きたいと思っています。

とても充実した 11 日間を送ることが出来て良かったです。

“ありがとう”



TSUCHIDA KANA

最高の思い出

~~~~~

燕中学校 2年 野澤 竜也

今回の海外派遣で学んだ事、自分の肌で感じた事を一生の宝物にしたいと思います。

7月28日の出発日、大きな期待感と少しの不安を胸に、飛行機に乗りました。約9時間のフライトを終え飛行機から降りると、とても肌寒く感じました。でも自分ではあまりオーストラリアに着いたという感じがしませんでした。

飛行機から降り、入国審査を受け終わるとバスで移動して、ローンパイン動物園へ向かいました。ローンパイン動物園では、コアラをはじめ絶滅が心配されるタスマニアデビルなど、とても珍しい動物たちを見ることができました。

その後、ホストファミリーの待つコリンダ高校というところに行きました。僕はとても緊張していてホストファミリーと会っても言語の違いに戸惑い、全く会話をする事が出来ませんでした。しかしホストファミリーや学校の生徒たちはとても優しく話しかけてくれた事で緊張もなくなりました。

家に着くと驚きの連続でした。家に入る時は、みな土足だし、家に大きいプールもあり、リゾートと思うくらいすごい家でした。私は、ホストファミリーへのお土産に「だるま」を持っていきました。「だるま」を渡すと、お母さんのアシェリーさんはとても喜んでくれました。

次の日、学校へ登校し英語の講習をした後で、また習慣の違いに驚きました。オーストラリアでは、2時間目の後にモーニングティーというものがあり、その時間に家から持ってきた食べ物を食べたりします。その習慣はとてもいいものだと感じました。

ホストファミリーと過ごしてとても楽しかったことは大きく分けられて3つあります。

1つ目は、ゴールドコーストというとても美しい浜を見ることができた事です。ゴールドコーストは、世界的に知られており日本人観光客も多くいました。冬なのにサーフィンをしていました。その後、すぐ近くのレストランで日本では食べられないサイズのハンバーガーを食べたことも心に残っています。

2つ目は、AFLの試合を見に行った事です。AFLは、ラグビーと違ってスタジアム全体が丸く、ゴールにはボールを蹴って入れなければゴールになりません。オーストラリアでは最も人気のあるスポーツみたいで、観客と選手の一体感がすごかったです。

3つ目は、家族でマウントクーサという展望台に行ったことです。マウントクーサは、ブリスベン市内を一望でき、その景色はとても素晴らしいものでした。

しかし何より楽しかったのは、ホストファミリーと過ごした時間です。僕のホームステイした一家は、明るくとても優しい家族でした。その中でも、パトリック君とバスケットボールをして遊んだり、水かけをして遊んだ事や、弟のミシェル君と一緒にゲームをしたことは、今でも強く心に残っています。

お別れパーティーの時に、私たちは「ふるさと」を歌いました。ホストファミリーの皆さんに喜んでもらえてよかったです。その後皆で食事をしました。そしてお別れのときに、ホ



ストファミリーから「また会いましょう。」と言われました。僕は、いつかブリスベンをまた訪れたいと思います。

このホームステイで得たものは、言葉で言い表せないぐらい、いろいろなものを得ることができましたが、その中でも「積極的に行動する事の大切さ。」を学びました。オーストラリアに来て英語が話せないこともあり、全く積極的に行動する事が出来なかったけれど、だんだん慣れてきて自分から積極的に行動するようになってから、自然と相手が何を言いたいのかなど、理解することが出来るようになりました。

今回学んだ事を将来に生かし、感謝の気持ちを忘れないでいこうと思います。



NOZAWA TATSUYA

# 貴重な体験

~~~~~

燕中学校 2年 長谷川 千 華

十四歳の私にとって忘れられないオーストラリアのホームステイ。

私は小学生の頃から海外に興味を持ち、「いつか絶対海外に行く!!」と思っていました。そして、今回、海外派遣事業に応募しました。その結果・・・みごと合格!! 期待を胸にオーストラリアへ GO!!

オーストラリアでは二つの出会いがありました。



一つ目は、ホストファミリーとの出会いです。ドキドキの対面でした。異国の人となると、どうやって話せばいいのか分かりませんでした。しかし、なんと mother は日本語が話せたのでした。一安心でした。

ここで、家族の紹介をします。父のマークはパイロットです。いつも明るく日本語であいさつをしてくれたのが印象的でした。母のスージーは日本のことをよく知っていて、おみやげに持っていった浮世絵のふろしきを喜んでくれました。長男のジュリアスはもうじき大学受験なので一緒にUQ（大学）に行きました。次男のミッキーは八歳です。毎日、トランポリンや卓球で遊びました。ホームステイ最終日には、ケーキを作ってくれました。Good boy!!

ホストファミリーは、心温まる人達です。遠く離れていてもつながっていたい!! これからも、連絡をとり交流を続けていきます。

二つ目は、コリンダ高校の出会いです。私のバディになったのはエリザベスとフォーンです。最初は言葉が聞き取れず、会話ができませんでした。聞きたいことも聞けず、何日か過ぎました。その後、ほかの派遣生とそのバディが合流してランチをしました。そのことがきっかけで今まで見えない壁が打ちこわれ親しくなりました。話ができるようになったのです。

「今日はどこにいきたい？」

とフォーン。私はいつも

「ランチ!!」

と、ちぐはぐな会話でしたが楽しい一時でした。

コリンダ高校での授業でネットボールをしました。ネットボールってどんなスポーツだと思いますか？私はネットがあるスポーツだと思っていたら、全くネットのないバスケットボールのようなものでした。その時一緒にランチをしたケイトが親切にルールなどを教えてくれました。私は、自分のチームのゴールを守る役になりました。ネットボールは相手に1メートル以上近づいてはいけないのですが、わたしは攻めてばかりいて、ホイッスルの嵐でした。そんな私にケイトは、

「That's OK!!」

とはげましてくれました。

そんな日々が続きましたが、あっという間に別れの日がやってきました。

お世話になったコリンダ高校を離れる時、エリザベスとフォーンが、
「ありがとう。手紙を書いてください。」

と。そして、私は、

「二十歳になったらまた来ます。」

と、再会の約束をしました。みんな涙を流していて感動の別れでした。このままずっと一緒にいたいという気持ちになりました。

私の十四歳のオーストラリアへの旅は終わりです、いろんな人達の出会いがありました。一生忘れることのできない思い出です。すべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

Thank you very much!!



HASEGAWA CHIKA

オーストラリアでの思い出

~~~~~

分水中学校 3年 古澤美里

私は、海外派遣生としてオーストラリアでホームステイをして、たくさんの事を経験することができました。

人見知りで、知らない人と話すのが苦手だと感じていた私をブリスベンの優しい方々が変えてくれたのです。

特にコリンダ高校に通ったことが一番思い出に残っています。スクールバディと一緒にモーニングティーやランチタイムを過ごしました。

最初は何を話したらいいのかわからずスクールバディの話の話を聞いているだけでした。

ですが、一生懸命私に伝えようとしてくれているのを見て、私も自分から話しかけてみたいと思うようになりました。少しずつ話かけられるようになった頃、私のまわりにはコリンダ高校のお友達がたくさんできました。

一緒にスポーツもしました。休み時間にテニスをしたり、スポーツの授業でフットボールもしたりしました。フットボールをするのは初めてでルールがわかりませんでした。身振り手振りなどを使って優しく教えてくれました。

私を泊めてくれた家では、ホストマザーがいつもおいしい料理を食べさせてくれたり、英語も教えてくれました。ある日にはホストマザーのお孫さんが遊びに来て、バーベキューをしました。バーベキューの後は、皆でサッカーをしました。いいキックだとほめられたのを覚えています。そして、日本の事について話し、折り紙で遊びました。英語で説明できませんでしたが、私が折っているのをまねして折ってくれました。

ホームステイでの生活はあまり楽ではありませんでした。ホームステイ中は日本食が食べられず、食べ物は何でも量が多くて、お風呂は毎日狭いところでシャワーを4分だけというものでした。日本ではいつも一時間ほど入っている入浴時間をいきなり4分のシャワーに変えるのはとてもきつかったです。最後にこの海外派遣を通して思ったことは、みんながフレンドリーで仲が良いということです。積極的に私に話しかけてくれて、私の目標でもあった『友達をたくさんつくる。』を達成することができました。

最初に英語で話しかけることが出来なかったけど、オーストラリアに来て、初対面の日本人にも恥ずかしながら話しかけてくれる方々を見ていたら、自然と自分から知らない人とも仲良くなりたいと思うようになりました。

そして、これからはもっと英語の勉強をして、海外の人と完璧な会話をしたいです。





FURUSAWA MISATO

# Thank you ♡



分水中学校 3年 山田夏美

私はこの夏、ずっと行きたかったオーストラリアの派遣生として、三大都市であるブリスベンに行かせて頂くことになりました。期待と不安でいっぱいの中、ブリスベンへ旅立ちました。

機内にて、私が友だちとおしゃべりをしていると、ある男性が“Excuse me”と声をかけてきました。韓国人の方でした。私は急に声をかけられ、どうすればいいのかわからず、ジェスチャーで対応しました。すると、相手に通じたみたいで、ジェスチャーでも相手に伝わったことがとてもうれしかったです。



しかし、「これからブリスベンに行くんだし、せっかくだから話しかけてみよう！」と思い、“Can you speak English?”と話しかけてみました。すると、“Yes”と応えてくれました。すごく簡単な質問だったけれど、英語で会話することができて、とても嬉しかったです。自分に自信がつき、オーストラリアでも頑張れる！と思いました。

オーストラリア滞在1日目、ローンパイン動物園を後にして、これから7日間、英語や音楽などを教わる『コリンダ学校』というところに向かいました。

初めに、スクールバディと自己紹介をしました。私たちのスクールバディは、エリザベス(Elizabeth)とフォン(Phuong)という、とてもかわいくて優しい人たちでした。

そして、いよいよ7日間お世話になるWeate家のみんなと対面しました。緊張のあまり、考えていた自己紹介文がぐだぐだになってしまい、機内ですいた自信も一気になくなってしまいました。私たちが固まっていると、スージー(Suzi)が「大丈夫です。わたし日本語、話せます。」と優しく話しかけてくれました。その一言で一気に緊張がとけて、車の中でも気をつけて、英語でゆっくりと話しかけてくれたり、何度も同じことを言ってくれて、なんとなくですが英語で会話が続けることができました。ホストファミリーの温かさが、身にしみました。

家に着いてからは、8歳のミッキー(Mickey)とトランポリンや卓球をして遊びました。すごく楽しかったです。

2日目には、コリンダ学校にある牧場に行きました。馬にえさを食べさせるのが、とても楽しかったです。また、さとうきびを食べました。見た目はパイナップルみたいだったけど、食べてみると甘くておいしかったです。

3・4日目には、マーク(Mark)の弟と一緒にフェリーに乗ったり、ジュリアス(Julius)の友人と、オーストラリアの大学を見に行きました。とても良い経験をさせてもらいました。

5・6日目には、コリンダ学校での友達と日本のこと、オーストラリアのこと、また恋バナなどで盛り上がりました。新しい友だちもできて本当に楽しかったです。

7日目、いよいよホストファミリーと過ごす最後の晩となりました。Suziがレストランでパーティーを開いてくれて、とても嬉しかったです。家に帰ってからは、ホストファミリーと写真を撮ったり、ゲームで遊んだり楽しい最後の晩となってよかったです。

そして、ホストファミリー・コリンダ学校とお別れの日、Suzi と Mickey が学校まで送ってくれて、お別れをしました。この7日間ちょっとした間、私たちに優しくしていただき本当にありがとうございます。感謝しています。

お別れパーティーでは、「よっちょれ」を踊りました。「よっちょれ」で使った鳴子をスクールバディーにプレゼントしました。また、おそろいのブレスレットもプレゼントしました。喜んでくれて嬉しかったです。

最後にみんなでハグしてお別れしました。この8日間、たくさんの思い出がよみがえり、思わず涙してしまいました。

長いようで短かった11日間の派遣事業を終え、私は思ったことがあります。それは、この派遣事業を通じて出会った人たちの優しさです。ホストファミリーやスクールバディはもちろん、学校の先生、ホストファミリーの親族の方々、そして、一緒に旅をした15人のみんなに本当に感謝しています。ありがとう！



YAMADA NATSUMI

# 日本では経験できない11日間

~~~~~

分水中学校 3年 山田真子

「ホームステイに行きたい！」

そう思ったのは、中学校の修学旅行がきっかけでした。たくさんの外国人観光客が集まる京都で、私はたくさんの外国人と話そうと挑戦してみました。ですが、なかなか英語を話す人と会えず後悔が残りました。それから派遣生募集という広告を見て、即応募を決めました。

無事面接を終え、ブリスベンに向かう飛行機の機内。韓国の人と隣の席になり、これから外国へ行くということで気持ちが高ぶっていた私は、話しかけられずにいられていませんでした。でも、恥ずかしくて話しかけることが出来ない私に、その人は持っていたチョコをくれました。そこからだんだんと話せるようになり、飛行機を降りる時に“Have a nice day.”と言って別れました。このことがホームステイ先で英語が通じるのかという不安を自信に変えてくれました。



待ちに待ったホストファミリーとの対面。みんなが私たちを優しく迎えてくれました。お母さんの Pauline は何かあるたびに“Oh, nice!” “Very cute!” と言っていつも楽しそうにしています。お父さんの Paul は陽気な性格で、よく口笛を吹いている印象を受けました。姉の Erin はとてもおしゃれで料理もできます。妹の Emily は考え事としていたときに「レロレロレロレロ・・・」というので面白いです。ペットの Summer という犬は、時にはなついてきて、時には素っ気ない態度をとるので勝手に「ツンデレ犬」と名付けました。

そんな明るい家族と過ごした楽しい8日間。公園で遊んだり、スーパーに行って全てがビックサイズなことに驚いたり、ガーデンに行ってウォータードラゴンを見つけたり、折り紙をしたり・・・。平日は毎日現地の学校に通いました。よく生徒が“What’s your name?”、日本語で「お元気ですか。」と話しかけてきてくれたので、たくさんの人と交流することができました。8日間の中でも一番印象に残っているのは、ホームパーティーへ行ったことです。「パーティー」というものに一度も行ったことがなかった私には、とても印象的なものになりました。20人以上もの人が集まり、ビリヤードやカラオケ、食べたり話をしたりして自由に過ごしていました。みんな歌が大好きなようで、カラオケを始めた時は、3人くらいで歌っていたのに、どんどんその周りに人が集まってきて、最終的には全員で歌っていました。大人も子どもも関係なく楽しんでる姿には驚き、感動しました。

今回の海外派遣は、初体験の連続で、毎日新鮮でした。その中で分かったこと、学んだことがあります。伝えたいという気持ちがあればうまく話せなくても伝わること。性別、年齢は関係なく、人とのふれ合いはとても楽しく、大切であるということ。英語が伝わった時のうれしさ。

うまくない英語、電子辞書を使っての会話を一生懸命理解しようとしてくれた韓国の人とブリスベンのみなさん、感謝しています。今度会ったときはスムーズに会話できるようにたくさん勉強しておきます。

See you again !!



YAMADA MAKO

シェボイガン市使節団員・ホストファミリー体験報告

アライナ・ゲデマー (Alaina Gedemer) さん ノース高校1年	48
■ 塚 田 和 哉 さん (廿六木3区)	49
テール・グエトショウ (Teal Guetschow) さん ノース高校1年	50
■ 横 山 正 憲 さん (吉田法花堂)	51
リン・トンプソン (Lynne Thompson) さん 引率者	52
■ 布 施 百合子 さん (秋葉町4丁目)	53
パム・ゴットサッカー (Pam Gottsacker) さん 引率者	54
■ 銅 倉 文 子 さん (吉田栄町)	55

文化紹介者の体験報告

茶道体験 ■ 石 黒 道 子 さん (穀町)	56
巻きずし・シフォンケーキ作り	
■ 鴨 井 智恵子 さん (ふれあいパーク久賀美)	56
書道・仏道体験 ■ 渋 谷 隆 阿 さん (国上)	56

平成22年度 姉妹都市シエボイガン市使節団滞在日程

月 日 (曜日)	時 間	内 容
7/14 (水)	15:00	・ ユナイテッド航空UA881便で成田空港到着→東京駅→燕三条駅着 (ホテル泊)
7/15 (木)	10:10 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~17:00 17:30~18:00	・ 宿泊先のホテル出発 ・ 打ち合わせ (日程説明・連絡事項ほか) ・ 昼食 ・ 銀行で両替→信濃川大河津資料館→野積海岸→弥彦神社等散策 ・ ホストファミリー対面式→ホストファミリー宅へ (ホームステイ)
7/16 (金)	8:30 9:30~11:30 12:00~13:00 13:30~14:00 14:30~17:00 17:30	・ 吉田庁舎集合→市長表敬訪問→9:00出発 ・ 分水中学校 ・ 昼食:分水学校給食センター ・ 国際交流協会表敬訪問 ・ 茶道体験 ・ ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/17 (土)	終日	・ ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
7/18 (日)	18:15 18:30 19:00 20:00	・ 日中はホストファミリーと過ごす ・ 燕庁舎集合 ・ 燕庁舎出発 ・ 燕ばやし大会参加(~19:50) ・ 燕庁舎へ戻る。ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/19 (月)		・ ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
7/20 (火)	8:30 9:30~11:30 12:00~13:30 14:00~15:00 15:30~17:00 17:30	・ 吉田庁舎集合→打合せ後、9:00出発 ・ 燕東小学校訪問 ・ 昼食 ・ 交通公園、こどもの森 ・ 消防本部、防災センター ・ ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/21 (水)	8:30 9:30~11:30 12:00~13:00 13:30~15:00 15:30~17:00 17:30	・ 吉田庁舎集合→打合せ後、9:00出発 ・ 地場産センター訪問 ・ 昼食 ・ 県央地区周辺を散策 ・ 産業史料館 ・ ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/22 (木)	8:30 9:30~11:30 12:00~13:30 14:00~15:30 15:30~17:00 17:30	・ 吉田庁舎集合 ・ クッキング・レッスン ・ 巻きずしとシフォンケーキの試食 ・ 仏道、書道体験 ・ 国上山、寺泊海岸近辺散策 ・ ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/23 (金)	8:30 9:17~10:15 10:30~15:30 16:00~16:50 17:10 17:30	・ 吉田庁舎集合→連絡・打ち合わせ後、移動 ・ JR吉田駅→JR新潟駅 (越後線) ・ ラブラ万代ほか新潟散策 ・ 高速バスで移動→燕駅到着 ・ 吉田庁舎着 ・ ホストファミリー出迎え (ホームステイ)
7/24 (土)		・ ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
7/25 (日)	11:30~13:30	・ お別れ会(感謝の会) 会場:吉田公民館 (ホームステイ)
7/26 (月)	7:45 9:55	・ 燕三条駅集合→燕三条駅発 ・ 東京駅着→東京観光 (ホテル泊)
7/27 (火)	16:55	・ エアポートリムジンバスで成田空港へ移動 ・ ユナイテッド航空UA882便で成田空港を発ち帰路の途へ (機内泊)

☆シェボーガン団員の声とそのホストファミリーのレポート



ファイル1 アライナ・ゲデマー さん（ノース高校1年）
(Alaina Gedemer)

1. 燕での滞在で良かったことは？

- ・ 小学校訪問
- ・ 日本海
- ・ お寺
- ・ 消防本部、防災センター訪問
- ・ 新潟市観光
- ・ 交通公園、こどもの森訪問など、みんな良かったです。

2. 改善して欲しい点がありますか？

産業史料館では通訳をお願いしたかった。

3. この滞在で考え方が変わりましたか？

日本の家庭の生活の仕方を知りました。

燕市の皆さんが私たちをととても歓迎してくれて親切なことを知りました。

4. その他、感想があったら書いてください。

日本では、素晴らしい経験をしました。皆さんが私たちにしていただいたすべてのことに感謝します。これからも燕を思い出し、会った皆さんを忘れないでしょう。



▲左がアライナさん、右がテールさん

アライナ・ゲデマーさんと
テール・グエトショウさんの
ホストファミリー

塚田和哉さん
(廿六木3区)

当初、アライナさん1人の予定でしたが、テールさんも一緒にステイすることになりました。(日程は7月26日までが7月22日までに変更)2日目からは2人で1部屋にし、くつろいだ様子でした。海の日を含めた3連休は、初日に野積海岸に(彼女たちは僅かな時間、海に入っていました)、2日目の午前は弥彦山登山、午後は河川公園でバーベキュー、夕方は燕ばやし踊りに参加、3日目は赤城山へブルーベリー狩りと、かなり多忙に過ごしました。猛暑の中、彼女たちはよく頑張ってくれました。

最初は長距離移動の疲れもあり、緊張していたようです(こちらもですが)。お互い少し慣れてくると、我々に分かり良い言葉を探しながらゆっくりと家族のことや食事のことなどを会話(?)しました。同年輩のこちらの子たちより少し大人っぽく感じました。また、娘たちと好きな音楽や人のことなどで盛り上がり、お互いいろいろな言葉や文字、若者言葉などを教えあっていました。

学校生活や生活環境など、日本と違うところをもっと聞きたかったと思います。わが家全員にとっても貴重な体験でした。そして、たいへん楽しい1週間でした。ホームステイの期間、こちらの子どもたちがまだ夏休みに入っていないので、平日あまり一緒に行動できなかつたのが残念でした。

食事に関して、慣れない和食のためか少食になりがちなので、間食を避けるほうがいいかもしれません。毎日が慌しく、もう少しゆっくり過ごす日も作ってあげた方が良かったな、と思いました。



▲ブルーベリー畑 収穫の後で



▲高崎市郊外の達磨寺にて、気温38℃を超えていました

☆シェボーガン団員の声とそのホストファミリーのレポート



ファイル2 テール・グエトショウ さん（ノース高校1年）
(Teal Guetschow)

1. 燕での滞在で良かったことは？

- ・ 小学校訪問
- ・ 日本海
- ・ お寺や神社
- ・ 新潟市観光
- ・ 消防本部、防災センター訪問
- ・ 交通公園、こどもの森訪問
- ・ 巻きずしとシフォンケーキ作りなど、みんな良かったです。

2. 改善して欲しい点がありますか？

産業史料館ではもう少し通訳してほしかった。

3. この滞在で考え方が変わりましたか？

- ・ 人はみんな同じだということが分かりました。
- ・ 全てのものが私の考え方を変えました。
- ・ とてもたくさんのことを学びました。

4. その他、感想があったら書いてください。

私の人生のある時間を日本で過ごしました。皆さんはとても喜んで、私たちを歓迎してくれました。いつか燕に戻って来たいと思います。皆さんと離れてとても寂しいです。



▲左がテールさん、右がアライナさん

テール・グエトショウさんと
アライナ・ゲデマーさんの
ホストファミリー

横山正憲さん
(吉田法花堂)

夜、自宅の庭先で家族全員と一緒に花火で遊んだり、吉田まつりに連れて行き、よさこいに参加し汗を流して踊り、竿灯の上に上げてもらい餅まきもしました。土日には100円ショップをはじめ色々なお店でショッピングを楽しんだり、寺泊の海で海水浴やビーチボールで遊んだり、浜茶屋ではアイスを食べたりして楽しみました。お別れ会の後、大勢でカラオケに行き、大変盛り上がりました。大花火大会にも連れて行き、喜んでくれたようでした。何度か一緒にスーパーへ買物に行き、パンケーキなど作ってくれました。

外食ではパスタを食べたり、チーズバーガーやフライドポテトなどを好んで食べたり、コーラやファンタグレープなど炭酸入り飲料が好きなので嗜好や食生活の違いを感じました。夕食後は、ウィー（テレビゲーム）をしたり、単語しかわからない片言の英会話やジェスチャーでも必死に伝えようとすれば伝わるし、通じるものだと感じました。二人も、簡単な日本語で会話してくれて、とてもフレンドリーに過ごせました。

金銭に換えられないような貴重な経験をしました。他の家庭でもホストファミリーの経験を是非してもらいたいと思います。アメリカの生活習慣や食生活の違いを知り、それを楽しんだりした部分もあり、もっともっと色々な事を知りたくなり、また機会があればもう一度受け入れてみたいと思います。



☆シェボーガン団員の声とそのホストファミリーのレポート



ファイル3 リン・トンプソン さん (引率者)
(Lynne Thompson)

1. 燕での滞在で良かったことは？

皆さんは素晴らしいです。市職員の方々からとてもよくしていただき、快適で楽しく過ごせました。12日間の皆さんの親切で惜しみないもてなしに感謝いたします。

2. 改善して欲しい点がありますか？

全てが素晴らしかったです。毎日の活動全てを楽しみました。ただ私の思惑と違ったのは新潟市で買い物をした日でした。その日は楽しく、良い日でした。私たちは家族への日本のお土産を買いたいと思っていましたが、そのショッピング・モールでは、ほしい衣類は見つかりませんでした。でも、とても素晴らしい日で、いっぱい楽しみました。

3. この滞在で考え方が変わりましたか？

私はこの交流事業に10年間かかわって来ました。そのため日本の人々や文化を学ぶ機会がたくさんありました。日本の皆さんが素晴らしく、親切であるということは、日本に来るまえからすでに知っていました。そして今、皆さんの国、そして燕を知ることは、とてもうれしくて、素晴らしい贈り物です。

4. その他、感想があったら書いてください。

今回の訪問は、ほんとうに素晴らしい経験でした。一瞬たりとも、さみしくなったり、故郷をなつかしく感じたりしたことはありません。皆さんが私たちを温かく迎えてくれて、とてもよくめんどろをみてくれました。それはとても大変で惜しみないもてなしでした。私には毎日が驚きでした。12日間はとても早く過ぎ去りましたが、もっと続いてほしかったです。市の皆様やそのほかのお会いした多くの皆様に感謝の意を表します。



リン・トンプソンさんの
ホストファミリー

布施 百合子 さん
(秋葉町4丁目)

2002年に私と一緒にシェボイガンを訪問した団員や知人と再会したり、ホームパーティを開いたりしました。弥彦神社参拝や家族と外食（回転寿司・ラーメン）、カラオケも体験しました。『明日に架ける橋』と一緒に歌って感動でした。

8年ぶりに再会した Lynne さんは、ほんとうにすばらしい方でした。ホストファミリーとして受け入れるにあたっては、家の中や日常生活を見直す、いいきっかけになりました。また家族にとっては共通の大切な思い出を作ることができて、よかったです。

英語の全くわからない母が、日本語で一生懸命語りかけている様子を見ると、まず「お互いに分かろうとする気持ちが交流の一步だ」と思いましたが、日本の文化を英語で伝えるためには、まだまだ勉強することがたくさんあると思いました。



☆シェボーガン団員の声とそのホストファミリーのレポート



ファイル4 パム・ゴットサッカー さん（引率者） (Pam Gottsacker)

1. 燕での滞在で良かったことは？

すべてがすばらしかったです。

2. 改善して欲しい点がありますか？

ありません。

3. この滞在で考え方が変わりましたか？

古くからの友人に会えたことは素晴らしいことでした。また燕の皆さんとのしっかりとした確かな絆があることを知りました。

4. その他、感想があったら書いてください。

滞在中は、市の皆さんの親しみのある対応に助けられました。引き続き連絡を取り合い、シェボーガンへの燕からの生徒の受け入れの準備をします。



パム・ゴットサッカーさんの
ホストファミリー

鍋倉文子さん
(吉田栄町)

パムさんの我が家でのホームステイは2度目だったので、今回は、以前より日常的な生活を体験していただいたように思います。

夕食時にゆっくり話し合い、おもしろい話をたくさん聞いたのが良かったです。前回のホームステイの後もカードのやり取りをしていましたが、今回さらに絆が深まり、パムさんとの出会いが一生の宝物のように感じました。

今後もシェボーガンから多くの生徒に来てもらい、燕市を知ってもらえるように願っています。



日本文化紹介者の報告

茶道体験

石黒道子さん（穀町）



7月14日にシェボイガン市より4名の使節団を迎え、日本文化の紹介ということで茶道を体験していただきました。茶道具の説明をしながら、お茶を飲んでもらいましたが、畳の上の正座もぎこちないながらも何とかうまく出来ました。和菓子は少々苦手だったようです。その後、腰掛けに移って、各自にお茶を点てもらいましたが、とても喜んでくださいました。言葉が通じないので困ったのですが身振りで何とか無事終わることができました。

巻きし・シフォンケーキ作り

鴨井 智恵子さん（ふれあいパーク久賀美）

最初は米粉シフォンケーキ作り。小麦粉で作ったことがあるようで手際よくオープンへ。

焼き時間を利用して、巻き寿司作りに挑戦。具材は好みそうなレタスやきゅうり、生ハムやチーズを用意しサラダ巻に。初めて使う巻き簾も上手に使いこなしあっという間に出来上がり、みんなで楽しく試食会。好奇心旺盛な子供達。

チラシで折った蝶々を見て講習会に。身振り手振りでなんとか出来上がり、笑顔で「ありがとう」と言われ嬉しかったです。



書道、仏道体験

澁谷隆阿さん（国上、本覚院）



シェボイガンの可愛い子が、我が山寺にやってきました。私に与えられた課題は「書道」。おそらく生まれて初めて筆を持つであろう子たちですので、簡単な字を選び「平和」の二文字と決めました。左手で書くやら、筆順は間違ふやら。それでも興味深そうに挑戦していました。何とか形になるから不思議です。大きな鐘や太鼓をたたき、異文化に触れる楽しい2時間でした。思い出に残ってくれば幸いです。

姉妹都市シェボーイガンから 使節団が来燕しました！ WELCOME TO TSUBAME CITY

★シェボーイガン市はアメリカ合衆国中北部。ミシガン湖の西のほとりにある人口約5万人面積 37.48 km²の都市です。



消防本部・防災センター見学(7/20)



燕市国際交流協会表敬訪問(7/16)



市長表敬訪問(7/16)



産業史料館見学(7/21)



茶道体験(7/16)



分水中学校訪問(7/16)



ふれあいパーク久賀美クッキング・レッスン(7/22)



飛燕夏まつり燕ばやし大会(7/18)



書道体験(7/22)



燕東小学校訪問(7/20)

姉妹都市であるシェボーイガン市から使節団（生徒2人と引率2人）が燕市にやってきました。
7月14日から26日までの期間、市内のホストファミリー宅に滞在しながら、学校や施設訪問、地域の事業への参加などを通じて、日本の文化や生活を体験しました。

ブリスベン

●阿部 リこ(小池中2年)

現地の学校やホームステイ先で多くの人たちとふれあい、毎日がとても楽しく、最高の思い出を作ることができました。

●大森 若菜(分水中3年)

学校ではスクールバディや生徒たちとたくさん話をしました。楽しかったです。仲良くなれてうれしかったです。

●金井 美樹(分水中2年)

ブリスベンの人たちが気さくに声を掛けてくれたことと、ビーチに行って夕焼けを見たことなどが思い出に残っています。

●岸本 克佳(分水中2年)

ホストファミリーの人に、ブリスベンの中心街、ゴールドコーストなどに連れて行ってもらって楽しかったです。

●佐藤 桃子(分水中3年)

わたしが一番印象に残ったことは、ホストファミリーと過ごした時間です。とても温かい家族でした。また会いたいです。

●志田 佳名子(分水中3年)

学校での生活が一番印象に

残っています。生徒のみんなが積極的にわたしに話し掛けてくれ、楽しい学校生活が送れました。

●高頭 舞(燕中等3年)

言葉はあまり伝わらなくても、コリンダ学校でできた友達と楽しく過ごすことができました。また会いたいです。

●橋 咲子(燕中等3年)

わたしは現地のコリンダ学校で過ごした時間が印象に残っています。生徒も先生も、明るく声を掛けてくれました。

●田中 舞(新大教育学部附属長岡中学校2年)

学校での授業を通して現地の人と交流することができました。英語での会話は難しかったけれど新鮮で楽しかったです。

●田中 真央(小池中2年)

わたしのブリスベンでの思い出は、いろんな方と仲良く、楽しいひとときを過ごしたことです。大切な宝物になりました。

●土田 佳奈(燕中等3年)

オーストラリアで、ホスト

ファミリーやスクールバディと過ごした11日間はとてもときな忘れられない思い出です。

●野澤 竜也(燕中2年)

ブリスベンでの生活は言葉で表せないほど充実していました。ブリスベンでの思い出を一生の宝物にしたいです。

●長谷川 千華(燕中2年)

言葉の壁を感じ、英語で話すことがうまくできなかったが、少しずついろんな人と話せるようになった。貴重な経験。

●古澤 美里(分水中3年)

わたしはブリスベンに行くと、日本との違いを肌で感じ取ることができ、とてもいい勉強になったと思います。

●山田 夏美(分水中3年)

学校でのスクールバディとのランチが印象に残っています。みんなで恋バナなどをして、本当に楽しかったです。

●山田 真子(分水中3年)

ホームステイ先の人たちと楽しくおしゃべりをして、盛り上がったことがとても印象に残っています。



コリンダ州立高校に到着しました。ホッとする間もなく、これからお世話になるホストファミリーと対面です。【7月29日】



オーストラリアの歌を覚えてもらいました。英語の歌でしたが、みんな上手に歌えるようになりました。【8月2日】



オーストラリアの家庭で作るクッキーを、英語で教わりながら作りました。焼きたてはとってもおいしかった!!【8月3日】



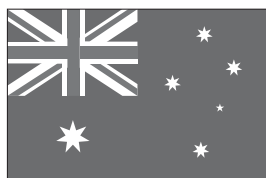
さよならパーティーが終わり、お別れ前にみんなで記念撮影です。「現地の皆さん大変お世話になりました!!」【8月5日】

燕市国際交流事業

アメリカ・オーストラリア海外での感動体験

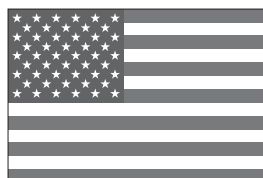


今年の中学生海外派遣事業は、姉妹都市ダンディへ4人、オーストラリアのブリスベンへ16人を派遣しました。貴重な体験をした海外派遣生の皆さん20人の声を紹介します。



オーストラリア
クイーンズランド州
ブリスベン

7月28日(水)
～8月7日(土)



アメリカ合衆国
ミシガン州
ダンディ

7月27日(火)
～8月7日(土)

ダンディ

●立島 里緒 (燕中等3年)
ダンディの人はすごく明るく優しい人たちばかりでした。もっと勉強して、またダンディへ遊びに行きたいです。

●平沢 桃奈 (分水中3年)
ダンディでは、日本では体験できないことが体験できました。ダンディの皆さん、良い思い出をありがとうございます!!

●古瀬 博規 (分水中3年)
毎日の素晴らしい日々は、あっという間に過ぎていってしまいました。アメリカの友達にまた会えるといいなあ。

●横野 零亜 (吉田中3年)
毎日が本当に楽しくて夢みたいでした。でもやっぱり英語がまだまだだったので、もっと英語力を上げたいと思いました。



グリーンフィールドビレッジにて、1900年代初期のアメリカに、タイムスリップした気分です。【7月29日】



ダンディスクール図書室で行われた歓迎会。ホストファミリーの子とも達と顔合わせ。「Nice to meet you!!」【7月27日】



地元生徒の作品展示や家畜の品評会、物販など、モンローカウティフェア(地元のお祭り)を満喫しました。【8月5日】



ダンディオフィスの議場で撮影。村長さんからプレゼントされた帽子を被って、みんなでパチリ。【7月28日】



◇ 海外派遣事業引率職員



・武田 芳貴 (ダンディ派遣)



・松本 和幸(ブリスベン派遣)・平松 由美(ブリスベン派遣)

編集後記

昨年は世界同時経済不況や新型インフルエンザの影響で国際交流事業が全て中止になったため、合併から5年を迎えた燕市の国際交流事業は、今年4回目の実施となりました。オーストラリアへの中学生派遣事業やアメリカの姉妹都市との交流事業も少しずつではありますが市民の皆さんに浸透しつつあるように思います。

今年の国際交流事業は、姉妹都市シェボイガン市からの使節団受入と姉妹都市ダンディ村、オーストラリアのブリスベン方面への中学生派遣の三つの事業でした。

姉妹都市シェボイガン市からは高校1年生2人と引率者2人を受け入れました。4人の使節団員は燕市に12日間滞在し、市民のホストファミリーのお宅にホームステイをしました。ホストファミリーやボランティアで日本文化を紹介してくださった皆さんのおかげで、姉妹都市からのお客様は日本の夏を満喫して帰っていきました。また、今年はシェボイガン市使節団受入に際しまして、東京在住の高橋良輔様から東京での使節団の出迎えや観光案内など多大なるご尽力をいただきました。

次に海外派遣事業では、姉妹都市ダンディ村へ4人、オーストラリア・ブリスベン方面へ16人の中学生の皆さんが、それぞれの目標を持って事業に参加しました。説明会や事前研修を重ねていく中で学校・学年が異なる派遣生の皆さんが仲間としてお互いに打ち解けていく姿がありました。また英会話の研修に積極的に参加している派遣生の姿を覚えています。不安と期待を胸に異国の地への旅立ち。そして、お互い仲間として励まし合い、助け合いながら過ごした日々は、派遣生の皆さんにとって何物にも代えがたい財産となったことでしょう。派遣生の皆さんは、海外派遣事業への参加を応援してくださったご両親やご家族への感謝の気持ちを忘れることなく、この機会に知り合った仲間や海外の友達、ホストファミリーとの交流を続けていかれることを希望いたします。

最後になりますが、国際交流事業にご協力いただいた多くの皆様へ感謝いたしますとともに、これからもより多くの市民の皆様から参加していただけるよう、心のこもった国際交流事業を進めていきたいと思っております。
(2010年12月)

○燕市の姉妹都市

- ・アメリカ合衆国 Wisconsin 州 シェボイガン市
- ・アメリカ合衆国 Michigan 州 ダンディ村

シェボイガン市の位置

ダンディ村の位置



○オーストラリア・ブリスベンの位置





▲シェボーイガン使節団の皆さん